

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2024年4月8日提出
【計算期間】	第22期(自 2023年1月7日至 2024年1月9日)
【ファンド名】	日本インデックス 2 2 5 D C ファンド
【発行者名】	S B I 岡三アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 塩川 克史
【本店の所在の場所】	東京都中央区京橋二丁目2番1号
【事務連絡者氏名】	中田 尚孝
【連絡場所】	東京都中央区京橋二丁目2番1号
【電話番号】	03-3516-1432
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

ファンドは、日本インデックスオープン225・マザーファンド受益証券を主要な投資対象とし、日経平均トータルリターン・インデックスに連動する投資成果を目標として運用を行います。

信託金の限度額

委託会社は、受託会社と合意のうえ、金5,000億円を限度として信託金を追加することができます。委託会社は、受託会社と合意のうえ、この限度額を変更することができます。

ファンドの商品分類

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づくファンドの商品分類および属性区分は、以下のとおりです。

商品分類表（ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。）

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	補足分類
単位型 追加型	国 内	株 式	
	海 外	債 券	インデックス型
	内 外	不動産投信	
		その他資産 ()	特 殊 型
	資産複合		

商品分類の定義

追加型	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。
国内	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
株式	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいう。
インデックス型	目論見書又は投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいう。

属性区分表（ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。）

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	対象インデックス
株式	年1回	グローバル		
一般	年2回	日本		
大型株	年4回	北米		
中小型株	年6回 (隔月)	欧州	ファミリーファンド	日経225
債券	年12回 (毎月)	アジア		
一般	日々	オセアニア		
公債	その他 ()	中南米		
社債		アフリカ	ファンド・オブ・ファンズ	TOPIX
その他債券		中近東 (中東)		
クレジット属性 ()		エマージング		
不動産投信				その他 ()
その他資産 (投資信託証券 (株式一般))				
資産複合 ()				
資産配分固定型				
資産配分変更型				

ファンドは、マザーファンドの受益証券（投資信託証券）を主要投資対象とするファミリーファンド方式で運用を行うため、属性区分におけるファンドの投資対象資産は、「その他資産（投資信託証券）」となり、商品分類における投資対象資産（収益の源泉）である「株式」とは分類・区分が異なります。

属性区分の定義

その他資産 (投資信託証券 (株式一般))	目論見書又は投資信託約款において、投資信託証券への投資を通じて、主として株式一般へ実質的に投資する旨の記載があるものをいう。 株式一般とは、大型株、中小型株属性にあてはまらないすべてのものを使う。
年1回	目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。
日本	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
ファミリーファンド	目論見書又は投資信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。）を投資対象として投資するものをいう。

(注) ファンドが該当しない商品分類および属性区分の定義につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<https://www.toushin.or.jp/>) でご覧いただけます。

〈ファンドの特色〉

- 日経平均トータルリターン・インデックスに連動する投資成果を目標として運用を行います。
日経平均トータルリターン・インデックスをベンチマークとします。

日経平均トータルリターン・インデックス とは…

配当込みの日経平均株価（225種）の値動きを示す指数です。

- ・「日経平均トータルリターン・インデックス」は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、「日経平均トータルリターン・インデックス」 자체及び「日経平均トータルリターン・インデックス」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。
- ・「日経」及び「日経平均トータルリターン・インデックス」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て株式会社日本経済新聞社に帰属します。
- ・本件投資信託は、投資信託委託業者等の責任のもとで運用されるものであり、株式会社日本経済新聞社は、その運用及び本件受益権の取引に関して、一切の責任を負いません。
- ・株式会社日本経済新聞社は、「日経平均トータルリターン・インデックス」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延又は中断に関して、責任を負いません。
- ・株式会社日本経済新聞社は、「日経平均トータルリターン・インデックス」の構成銘柄、計算方法、その他、「日経平均トータルリターン・インデックス」の内容を変える権利及び公表を停止する権利を有しています。

*日経平均株価（225種）とは、株式会社日本経済新聞社が東証プライム市場上場銘柄のうち代表的な225銘柄を対象に算出・公表している株価指数であり、わが国の株式市場動向を反映する代表的な指標のひとつです。

- 流動性に著しく欠ける銘柄や信用リスクが高いと判断される銘柄等の組入れは、行わないことがあります。
- 資金動向、市況動向によっては、株価指数先物取引等を活用することがあります。このため、一時的に現物株式の実質組入総額と株価指数先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が、信託財産の純資産総額を超えることがあります。
- 株式以外の資産（日本インデックスオープン225・マザーファンドに属する株式以外の資産のうち、この投資信託の信託財産に属するとみなした部分を含みます。）への実質投資割合は、原則として信託財産総額の50%以下とします。

※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

分配方針

毎年1月6日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。

- 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子等収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- 分配金額は、委託会社が基準価額水準、利子等収益等を勘案のうえ決定します。

※分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。
※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

（2）【ファンドの沿革】

2002年1月7日 信託契約締結、設定、運用開始
2007年1月4日 投資信託振替制度へ移行

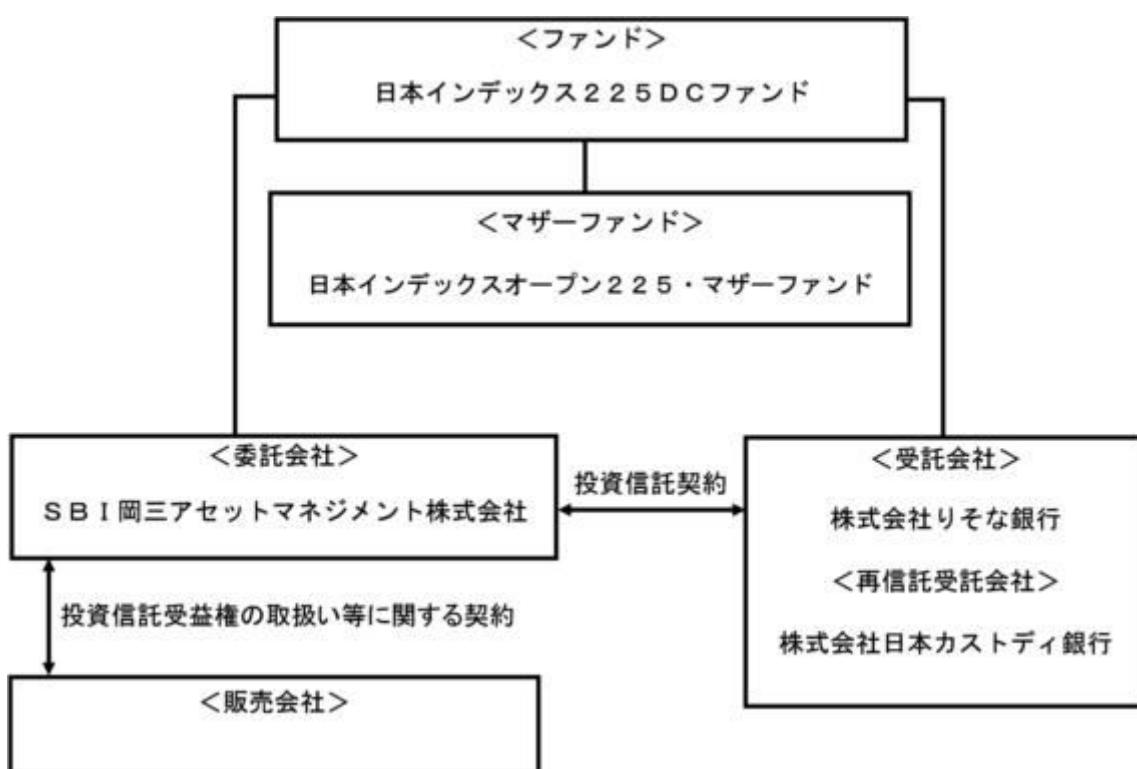
(3) 【ファンドの仕組み】

ファミリーファンド方式

ファミリーファンド方式とは、投資家から投資された資金をベビーファンドとしてまとめ、その資金を主としてマザーファンドに投資することにより、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。



ファンドの関係法人とその役割



関係法人	役割
委託会社	投資信託契約に基づき、投資信託財産の運用指図、投資信託財産の計算（基準価額の計算）、収益分配金、償還金及び解約金の支払い、投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）および運用報告書の作成・交付等を行います。
受託会社	投資信託契約に基づき、投資信託財産の保管・管理・計算、委託会社の指図に基づく投資信託財産の処分等を行います。
再信託受託会社	受託会社との再信託契約に基づき、所定の事務を行います。
販売会社	委託会社との間に締結した「投資信託受益権の取扱い等に関する契約」に基づき、受益権の募集の取扱い、投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、収益分配金の再投資、償還金及び解約金の支払事務等を行います。

委託会社の概況（2024年1月末日現在）

資本金
1億円

委託会社の沿革

1964年10月 6日	「日本投信委託株式会社」設立
2008年 4月 1日	岡三投資顧問株式会社と合併し、商号を「岡三アセットマネジメント株式会社」に変更
2023年 7月 1日	商号を「SBI岡三アセットマネジメント株式会社」に変更

大株主の状況

名 称	住 所	持株数	持株比率
SBI F S 合同会社	東京都港区六本木一丁目6番1号	577,400株	51.0%
株式会社岡三証券グループ	東京都中央区日本橋一丁目17番6号	554,701株	49.0%

2 【投資方針】

（1）【投資方針】

基本方針

ファンドは、日経平均トータルリターン・インデックスに連動する投資成果を目標として運用を行います。

運用方法

a 投資対象

日本インデックスオープン225・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。

b 投資態度

イ．主として、日本インデックスオープン225・マザーファンド受益証券に投資し、日経平均トータルリターン・インデックスに連動する投資成果を目指して運用を行います。

ロ．株式以外の資産への実質投資割合（マザーファンドの信託財産に属する株式以外の資産のうち、信託財産に属するとみなした割合を含みます。）は、原則として投資信託財産総額の50%以下とします。

（2）【投資対象】

投資の対象とする資産の種類

ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類（本邦通貨表示のものに限ります。）は、次に掲げるものとします。

- a 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）
- イ．有価証券
 - ロ．金銭債権
 - ハ．約束手形

b 次に掲げる特定資産以外の資産

- イ．為替手形

運用の指図範囲

a 有価証券

委託会社は、信託金を、主として、SBI岡三アセットマネジメント株式会社を委託会社とし、株式会社りそな銀行を受託会社として締結された親投資信託「日本インデックスオープン225・マザーファンド」の受益証券のほか、次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

- イ．コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等

- ロ．外国または外国の者の発行する本邦通貨表示の証券で、上記イ．の証券の性質を有するもの

- ハ．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

b 金融商品

委託会社は、信託金を、上記の有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

- イ．預金

- ロ．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

- ハ．コール・ローン

- ニ．手形割引市場において売買される手形

(参考)ファンドが投資するマザーファンドの概要

日本インデックスオープン225・マザーファンド

委託会社	SBI岡三アセットマネジメント株式会社
基本方針	日経平均トータルリターン・インデックスに連動する投資成果を目標として運用を行います。
投資対象	わが国の金融商品取引所上場株式のうち、日経平均株価に採用されている銘柄を投資対象とします。

投資態度	日経平均株価（225種）採用銘柄を投資対象とし、日経平均トータルリターン・インデックスに連動する投資成果を目標として運用を行います。ただし、流動性に著しく欠ける銘柄や信用リスクが高いと判断される銘柄等の組入れは行わないことがあります。 資金動向、市況動向によっては、株価指数先物取引等を活用することができます。このため、一時的に現物株式の組入総額と株価指数先物取引等の買建玉の時価総額の合計額が信託財産の純資産総額を超えることがあります。 株式以外の資産への投資割合は、原則として投資信託財産総額の50%以下とします。
投資制限	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。 デリバティブ取引は、価格変動リスクを回避する目的ならびに投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポートレーラー、債券等エクスポートレーラーおよびデリバティブ等エクスポートレーラーの投資信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。
決算	毎年9月6日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行います。 信託財産から生ずる利益は、信託終了時まで信託財産中に留保し、分配は行いません。
信託報酬	ありません。
その他	・デリバティブ取引等に係る投資制限 デリバティブ取引等については、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところに従い、合理的な方法により算出した額が投資信託財産の純資産総額を超えないものとします。

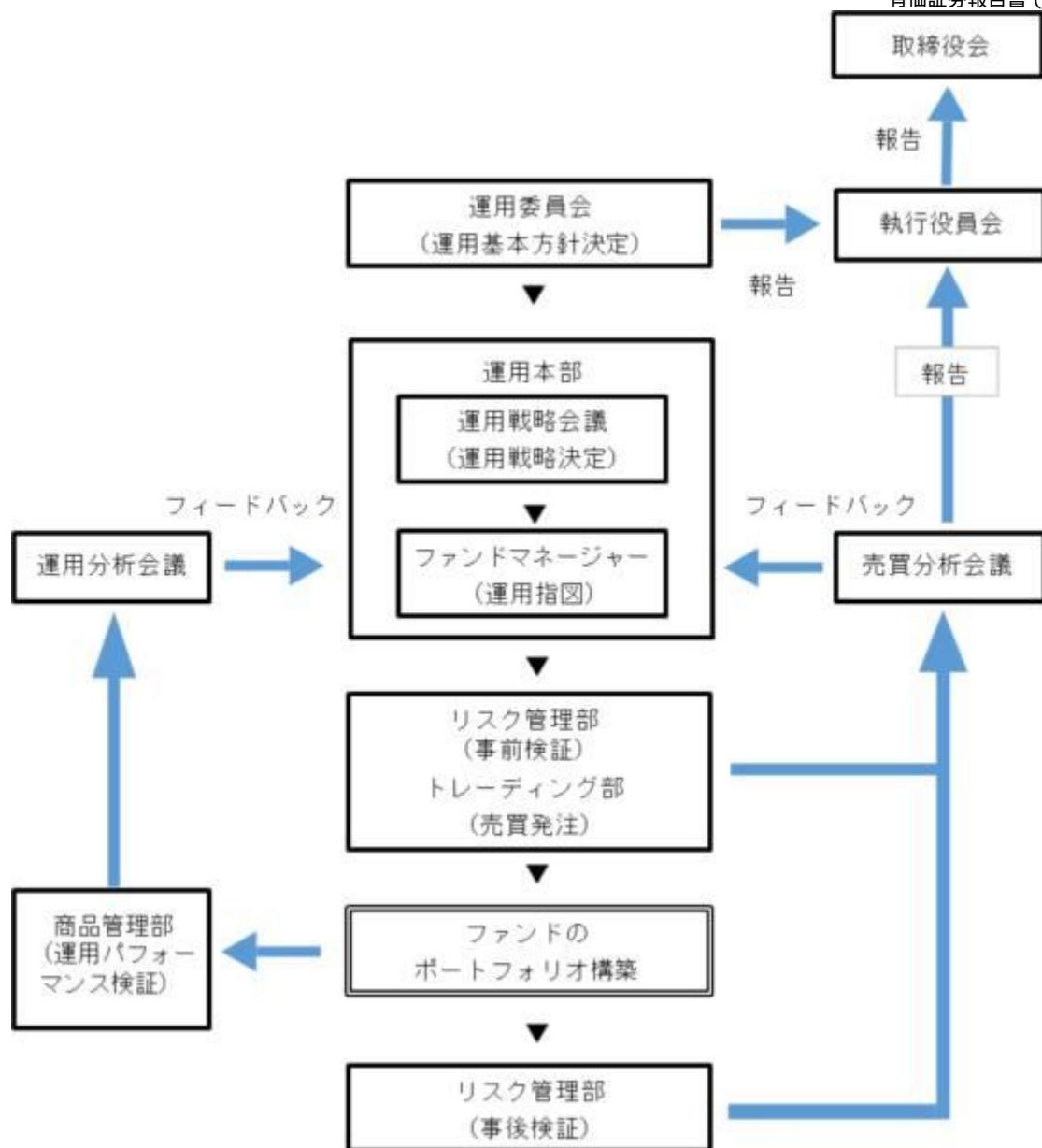
日経平均トータルリターン・インデックスについて

- ・「日経平均トータルリターン・インデックス」は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、「日経平均トータルリターン・インデックス」自体及び「日経平均トータルリターン・インデックス」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。
- ・「日経」及び「日経平均トータルリターン・インデックス」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て株式会社日本経済新聞社に帰属します。
- ・本件投資信託は、投資信託委託業者等の責任のもとで運用されるものであり、株式会社日本経済新聞社は、その運用及び本件受益権の取引に関して、一切の責任を負いません。
- ・株式会社日本経済新聞社は、「日経平均トータルリターン・インデックス」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延又は中断に関して、責任を負いません。
- ・株式会社日本経済新聞社は、「日経平均トータルリターン・インデックス」の構成銘柄、計算方法、その他、「日経平均トータルリターン・インデックス」の内容を変える権利及び公表を停止する権利を有しています。

(3) 【運用体制】

運用体制、内部管理および意思決定を監督する組織

ファンドの運用体制、内部管理および意思決定を監督する組織は、以下のようになります。



会議名または部署名	役割
運用委員会 (月1回開催)	運用本部が策定した投資環境分析と運用の基本方針案に基づいて検討を行い、運用の基本方針を決定します。また、運用に関する内規の制定及び改廃等を決定します。委員長は審議・検討結果を執行役員会へ報告します。 また、執行役員会の構成員である業務執行取締役は、審議・検討結果を取締役会へ報告します。
運用戦略会議 (月1回開催)	運用委員会で決定された運用の基本方針に基づいたファンドの運用戦略を決定します。
各運用部	ファンドマネージャーは、運用戦略会議で決定された運用戦略に基づき、運用計画を策定し、運用計画に基づいて、運用の指図を行います。
運用分析会議 (月1回開催)	運用のパフォーマンス向上等に資することを目的に、ファンドの運用パフォーマンスを分析・検証・評価し、各運用部にフィードバックを行います。

売買分析会議 (月1回開催)	運用指図及び売買発注の事前検証及び事後検証に関する報告、法令諸規則及び約款等の遵守状況の検証に関する報告、及び運用リスク管理状況の検証に関する報告を行います。議長は会議の結果を執行役員会へ報告します。 また、執行役員会の構成員である業務執行取締役は、会議の結果を取締役会へ報告します。
業務審査委員会 (原則月1回開催)	運用指図や売買発注等において、事務処理ミスや法令諸規則違反等の適切な事案や事故が発生した場合に、その対応策や業務改善策等について審議し決定します。委員長はその結果を執行役員会へ報告します。 また、執行役員会の構成員である業務執行取締役は、審議事項等を取締役会へ報告します。
トレーディング部 (5~10名程度)	売買発注を行うとともに、最良執行の観点から検証・分析を行います。
リスク管理部 (3~5名程度)	運用指図の事前検証、法令諸規則及び約款等の遵守状況の事後検証、及び運用リスク管理状況の検証を行います。
商品管理部 (5~10名程度)	ファンドの運用パフォーマンスを分析・検証・評価し、各運用部にフィードバックを行います。

社内規程

委託会社は、ファンドの運用に関する社内規程等において、運用を行うに当たって遵守すべき事項等を定め、ファンドの商品性に則った適切な運用を行っています。

また、委託会社では、「リスク管理規程」において運用に関するリスク（法令諸規則、運用財産の約款又は規約及び基本方針を逸脱した運用の実施、投資対象企業及び取引先の信用力低下、運用財産の資金の流動性低下等）を管理すべきリスクとして定め、運用本部及び運用本部から独立した部署がモニタリングや検証を通じて管理を行っています。

ファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制等

「受託会社」または「再信託受託会社」に対しては、日々の基準価額および純資産照合、月次の勘定残高照合などを行っております。

運用体制等につきましては、2024年1月末日現在のものであり、変更になることがあります。

（4）【分配方針】

毎年1月6日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき分配を行います。

a 分配対象収益の範囲

繰越分を含めた利子等収入と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

b 分配対象収益についての分配方針

委託会社が基準価額水準、利子等収益等を勘案のうえ分配金額を決定します。

c 留保益の運用方針

分配に充てなかった留保益については、運用の基本方針と同一の運用を行います。

収益分配金は、決算日の基準価額で再投資します。

（5）【投資制限】

<約款に基づく投資制限>

マザーファンド受益証券への投資割合には制限を設けません。

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への投資は行いません。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポートジャー、債券等エクスポートジャーおよびデリバティブ等エクスポートジャーの投資信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

資金の借入れ

- a 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性をはかるため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- b 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入れ額は、借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- c 収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- d 借入金の利息は、信託財産中より支弁します。

<関係法令に基づく投資制限>

- a 委託会社は、投資信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該投資信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。
- b 委託会社は、投資信託財産に関し、信用リスク（保有する有価証券その他の資産について取引の相手方の債務不履行その他の理由により発生し得る危険をいいます。）を適正に管理する方法としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法に反することとなる取引を行うことを受託会社に指図しないものとします。
- c 委託会社は、同一の法人の発行する株式について、委託会社が運用の指図を行う全ての委託者指図型投資信託につき投資信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数が、当該株式に係る議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合において、当該株式を投資信託財産をもって取得することを受託会社に指図することはできません。

3 【投資リスク】

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さんに帰属します。

ファンドは、国内の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

<投資リスク>

株価変動リスク

株式の価格は、株式の発行会社の業績や財務状況、株式市場の需給、政治・経済状況等の影響により変動します。

投資した株式の価格の上昇は、ファンドの基準価額の上昇要因となり、投資した株式の価格の下落は、ファンドの基準価額の下落要因となります。

投資した株式の価格の下落の影響で、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

日経平均株価（225種）変動リスク

日経平均トータルリターン・インデックスに連動する投資成果を目標として運用しますので、日経平均株価（225種）の下落の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

信用リスク

有価証券等の発行体の破綻や財務状況の悪化、および有価証券等の発行体の財務状況に関する外部評価の変化等の影響により、投資した有価証券等の価格が大きく下落することや、投資資金が回収不能となる場合があります。このような場合には、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

債券や短期金融商品へ投資した場合には、元利支払いの不履行もしくは遅延の影響で、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

<留意事項>

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てる必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収

益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

- ・ ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。
- ・ 日経平均トータルリターン・インデックスに連動する投資成果を目標として運用を行いますが、日経平均トータルリターン・インデックスとの連動を保証するものではありません。
以下の要因などによりファンドの基準価額と日経平均トータルリターン・インデックスに乖離が生じことがあります。
 - (a) 株式や株価指数先物取引等の売買委託手数料、信託報酬や監査費用等の負担
 - (b) 流動性に著しく欠ける銘柄や信用リスクが高いと判断される銘柄を組入れないこと
 - (c) 日経平均株価（225種）採用銘柄の銘柄入替え
 - (d) 株価指数先物取引等を活用すること

<投資リスクに対する管理体制>（2024年1月末日現在）

- ・ 運用委員会において運用に関する内規の制定及び改廃、個別ファンドに係る運用リスク管理に関する事項を決定します。
- ・ リスク管理部は、投資信託財産の運用の指図につき法令、投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款等（以下、「法令諸規則等」という。）に定める運用の指図に関する事項の遵守状況を確認します。

発注前の検証については、運用実施に関する内規に基づき、発注内容が法令諸規則等に照らして適切であるか否かについて伝票又はオーダー・マネジメント・システムのコンプライアンスチェック機能を利用して確認を行います。

- 発注後の検証については、運用指図結果の適法性又は適正性について確認を行います。
- ・ 流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行います。執行役員会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督します。
 - ・ 運用分析会議におけるファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価や、売買分析会議におけるファンドの組入有価証券の格付状況、有価証券売買状況や組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し管理を行います。

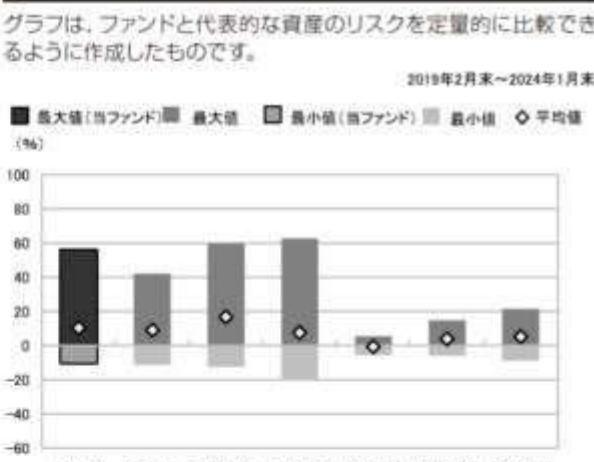
(参考情報)

ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移



- * 分配金再投資基準価額は、2019年2月末を10,000として指数化しております。
- 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算していますので、実際の基準価額と異なる場合があります。
- * 年間騰落率は、2019年2月から2024年1月の5年間の各月末における1年間の騰落率を表示したものです。
- 年間騰落率は、分配金再投資基準価額に基づいて計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- * 全ての資産クラスは当ファンドの投資対象とは限りません。
- * 2019年2月から2024年1月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- * 決算日に対応した数値とは異なります。
- * 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

各資産クラスの指標

- 日本株…東証株価指数(TOPIX)(配当込み)
- 先進国株…MSCI-KOKUSAIインデックス(配当込み、円ベース)
- 新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)
- 日本国債…NOMURA-BPI国債
- 先進国債…FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
- 新興国債…JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)
- (注)海外の指標は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指標について

騰落率は、データソースが提供する各指標をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

東京株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものであります。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX純研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。

MSCI-KOKUSAIインデックス(配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAIインデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指標で、配当を考慮したものであります。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指標で、配当を考慮したものであります。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指標です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社に帰属します。

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指標です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)は、JP Morgan Securities LLCが算出、公表している。新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指標です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、JP Morgan Securities LLCに帰属します。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

ありません。

(2)【換金(解約)手数料】

ありません。

（3）【信託報酬等】

信託報酬の総額及びその配分

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、ファンドの純資産総額に年率0.253%（税抜0.23%）を乗じて得た額とします。信託報酬は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。

信託報酬は、「委託会社」、「販売会社」及び「受託会社」の間で次のように配分します。

委託会社	年率0.110%（税抜0.10%）	委託した資金の運用の対価です。
販売会社	年率0.110%（税抜0.10%）	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。
受託会社	年率0.033%（税抜0.03%）	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。

信託報酬の支払時期

毎計算期間の最初の6ヶ月終了日及び毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支弁します。

（4）【その他の手数料等】

ファンドの組入有価証券の売買委託手数料は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。なお、マザーファンドの組入有価証券の売買委託手数料、先物取引の売買委託手数料につきましては、間接的に受益者の負担となります。

ファンドの財務諸表の監査費用は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年率0.0055%（税抜0.005%）を乗じて得た額とし、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支弁します。

ファンドの解約に伴う支払資金の手当て又は再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的とした借入金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

ファンドの信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、及び受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。なお、マザーファンドの当該費用につきましては、間接的に受益者の負担となります。

その他の手数料等につきましては、財務諸表の監査費用を除き、運用状況等により変動するものであり、事前に金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

（5）【課税上の取扱い】

ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

ファンドは、確定拠出年金法に基づく確定拠出年金制度のための専用ファンドです。

確定拠出年金の課税上の取扱いは、下記の通りとなります。

受益者が確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合は、所得税および地方税はかかりません。

なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

上記の内容は2024年1月末日現在のものですので、税法または確定拠出年金法が改正された場合等には税率等が変更されることがあります。

税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

(参考情報) ファンドの総経費率

直近の運用報告書対象期間(2023年1月7日～2024年1月9日)の総経費率(年率)

総経費率(①+②)	運用管理費用の比率①	その他費用の比率②
0.26%	0.25%	0.01%

*対象期間中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、購入時手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除きます。)を対象期間中の平均受益権口数に對象期間中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)です。

*その他費用の比率は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

*上記の前提条件で算出されたもので、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

*詳細につきましては直近の運用報告書(全体版)をご覧ください。

5 【運用状況】

2024年 1月31日現在の運用状況は、以下の通りです。

投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。また、小数点以下第3位を四捨五入しており、合計と合わない場合があります。

(1) 【投資状況】

日本インデックス225DCファンド

資産の種類	国 / 地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	4,379,355,396	99.99
コール・ローン等、その他の資産(負債控除後)		491,122	0.01
合計(純資産総額)		4,379,846,518	100.00

(参考) 日本インデックスオープン225・マザーファンド

資産の種類	国 / 地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	日本	17,048,473,400	98.10
コール・ローン等、その他の資産(負債控除後)		330,617,199	1.90
合計(純資産総額)		17,379,090,599	100.00

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

日本インデックス225DCファンド

順位	国 / 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	親投資信託 受益証券	日本インデックスオープン225・マザーファンド	912,061,687	4.4722	4,079,008,818	4.8016	4,379,355,396	99.99

(種類別投資比率)

種類		投資比率(%)	
親投資信託受益証券		99.99	
合計		99.99	

(参考)日本インデックスオープン225・マザーファンド

順位	国/地域	種類	銘柄名	業種	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	株式	ファーストリテイリング	小売業	48,000	34,195.00	1,641,360,000	39,740.00	1,907,520,000	10.98
2	日本	株式	東京エレクトロン	電気機器	48,000	22,322.93	1,071,501,000	27,865.00	1,337,520,000	7.70
3	日本	株式	アドバンテスト	電気機器	128,000	4,633.21	593,052,000	5,823.00	745,344,000	4.29
4	日本	株式	ソフトバンクグループ	情報・通信業	96,000	6,395.25	613,944,000	6,460.00	620,160,000	3.57
5	日本	株式	KDDI	情報・通信業	96,000	4,395.75	421,992,000	4,897.00	470,112,000	2.71
6	日本	株式	信越化学工業	化学	80,000	4,834.68	386,775,000	5,875.00	470,000,000	2.70
7	日本	株式	ダイキン工業	機械	16,000	25,937.18	414,995,000	23,885.00	382,160,000	2.20
8	日本	株式	TDK	電気機器	48,000	5,554.56	266,619,000	7,442.00	357,216,000	2.06
9	日本	株式	ファナック	電気機器	80,000	4,167.68	333,415,000	4,117.00	329,360,000	1.90
10	日本	株式	テルモ	精密機器	64,000	4,390.12	280,968,000	5,031.00	321,984,000	1.85
11	日本	株式	リクルートホールディングス	サービス業	48,000	5,379.00	258,192,000	5,927.00	284,496,000	1.64
12	日本	株式	京セラ	電気機器	128,000	1,912.15	244,756,000	2,182.50	279,360,000	1.61
13	日本	株式	中外製薬	医薬品	48,000	4,489.50	215,496,000	5,347.00	256,656,000	1.48
14	日本	株式	レーザーテック	電気機器	6,400	24,179.75	154,750,449	39,780.00	254,592,000	1.46
15	日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	80,000	2,645.50	211,640,000	3,000.00	240,000,000	1.38
16	日本	株式	ソニーグループ	電気機器	16,000	12,731.06	203,697,000	14,695.00	235,120,000	1.35
17	日本	株式	第一三共	医薬品	48,000	4,199.00	201,552,000	4,423.00	212,304,000	1.22
18	日本	株式	日東電工	化学	16,000	10,350.25	165,604,000	12,310.00	196,960,000	1.13
19	日本	株式	セコム	サービス業	16,000	10,198.68	163,179,000	10,720.00	171,520,000	0.99
20	日本	株式	NTTデータグループ	情報・通信業	80,000	1,979.87	158,390,000	2,140.50	171,240,000	0.99
21	日本	株式	本田技研工業	輸送用機器	96,000	1,640.68	157,506,000	1,675.50	160,848,000	0.93
22	日本	株式	豊田通商	卸売業	16,000	9,025.25	144,404,000	9,786.00	156,576,000	0.90
23	日本	株式	バンダイナムコホールディングス	その他製品	48,000	3,346.81	160,647,000	3,215.00	154,320,000	0.89
24	日本	株式	HOYA	精密機器	8,000	16,693.18	133,545,500	18,945.00	151,560,000	0.87
25	日本	株式	富士フイルムホールディングス	化学	16,000	8,805.31	140,885,000	9,410.00	150,560,000	0.87
26	日本	株式	デンソー	輸送用機器	64,000	2,554.45	163,485,000	2,341.00	149,824,000	0.86
27	日本	株式	キッコーマン	食料品	16,000	8,422.37	134,758,000	9,141.00	146,256,000	0.84
28	日本	株式	コナミグループ	情報・通信業	16,000	8,405.87	134,494,000	9,126.00	146,016,000	0.84
29	日本	株式	オリンパス	精密機器	64,000	2,044.93	130,876,000	2,200.00	140,800,000	0.81
30	日本	株式	アステラス製薬	医薬品	80,000	2,189.12	175,130,000	1,725.00	138,000,000	0.79

(種類別及び業種別投資比率)

種類	国内/外国	業種	投資比率 (%)
株式	国内	水産・農林業	0.07

鉱業	0.07
建設業	1.56
食料品	3.26
繊維製品	0.09
パルプ・紙	0.06
化学	6.69
医薬品	5.83
石油・石炭製品	0.19
ゴム製品	0.71
ガラス・土石製品	0.66
鉄鋼	0.08
非鉄金属	0.63
金属製品	0.02
機械	4.75
電気機器	26.87
輸送用機器	4.62
精密機器	3.75
その他製品	2.30
電気・ガス業	0.15
陸運業	1.19
海運業	0.46
空運業	0.27
倉庫・運輸関連業	0.20
情報・通信業	9.89
卸売業	3.21
小売業	12.79
銀行業	0.63
証券、商品先物取引業	0.16
保険業	0.87
その他金融業	0.77
不動産業	1.09
サービス業	4.21
合計	98.10

【投資不動産物件】

日本インデックス225DCファンド
該当事項はありません。

(参考) 日本インデックスオープン225・マザーファンド
該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

日本インデックス225DCファンド

該当事項はありません。

(参考) 日本インデックスオープン225・マザーファンド

種類	取引所	資産の名称	買建/ 売建	数量	通貨	帳簿価額 (円)	評価額(円)	投資比率 (%)
株価指数先物 取引	大阪取引所	日経平均株価指数先物	買建	8	日本円	275,317,040	290,960,000	1.67

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

日本インデックス225DCファンド

	純資産総額(円)		基準価額(円) (1口当たり)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第13期計算期間末 (2015年 1月 6日)	1,691,723,369	1,691,723,369	1.7059	1.7059
第14期計算期間末 (2016年 1月 6日)	1,852,151,261	1,852,151,261	1.8555	1.8555
第15期計算期間末 (2017年 1月 6日)	1,932,815,423	1,932,815,423	2.0119	2.0119
第16期計算期間末 (2018年 1月 9日)	2,242,149,434	2,242,149,434	2.5019	2.5019
第17期計算期間末 (2019年 1月 7日)	2,087,682,096	2,087,682,096	2.1508	2.1508
第18期計算期間末 (2020年 1月 6日)	2,183,955,291	2,183,955,291	2.5377	2.5377
第19期計算期間末 (2021年 1月 6日)	2,578,984,554	2,578,984,554	3.0113	3.0113
第20期計算期間末 (2022年 1月 6日)	2,876,328,544	2,876,328,544	3.2131	3.2131
第21期計算期間末 (2023年 1月 6日)	2,761,392,081	2,761,392,081	2.9821	2.9821
第22期計算期間末 (2024年 1月 9日)	4,037,892,059	4,037,892,059	3.9419	3.9419
2023年 1月末日	2,914,553,924		3.1370	
2月末日	2,912,224,065		3.1520	
3月末日	2,985,443,735		3.2497	
4月末日	2,997,439,128		3.3436	
5月末日	3,226,562,655		3.5801	
6月末日	3,535,354,180		3.8495	
7月末日	3,615,743,944		3.8461	
8月末日	3,573,769,070		3.7824	
9月末日	3,534,486,229		3.7177	
10月末日	3,486,736,685		3.6007	
11月末日	3,781,167,528		3.9064	
12月末日	3,998,210,906		3.9087	
2024年 1月末日	4,379,846,518		4.2387	

【分配の推移】

日本インデックス225DCファンド

	期間	分配金 (1口当たり)
第13期計算期間	2014年 1月 7日～2015年 1月 6日	0.0000円

第14期計算期間	2015年 1月 7日～2016年 1月 6日	0.0000円
第15期計算期間	2016年 1月 7日～2017年 1月 6日	0.0000円
第16期計算期間	2017年 1月 7日～2018年 1月 9日	0.0000円
第17期計算期間	2018年 1月 10日～2019年 1月 7日	0.0000円
第18期計算期間	2019年 1月 8日～2020年 1月 6日	0.0000円
第19期計算期間	2020年 1月 7日～2021年 1月 6日	0.0000円
第20期計算期間	2021年 1月 7日～2022年 1月 6日	0.0000円
第21期計算期間	2022年 1月 7日～2023年 1月 6日	0.0000円
第22期計算期間	2023年 1月 7日～2024年 1月 9日	0.0000円

【収益率の推移】

日本インデックス225DCファンド

	期間	収益率(%)
第13期計算期間	2014年 1月 7日～2015年 1月 6日	7.0
第14期計算期間	2015年 1月 7日～2016年 1月 6日	8.8
第15期計算期間	2016年 1月 7日～2017年 1月 6日	8.4
第16期計算期間	2017年 1月 7日～2018年 1月 9日	24.4
第17期計算期間	2018年 1月 10日～2019年 1月 7日	14.0
第18期計算期間	2019年 1月 8日～2020年 1月 6日	18.0
第19期計算期間	2020年 1月 7日～2021年 1月 6日	18.7
第20期計算期間	2021年 1月 7日～2022年 1月 6日	6.7
第21期計算期間	2022年 1月 7日～2023年 1月 6日	7.2
第22期計算期間	2023年 1月 7日～2024年 1月 9日	32.2

(注) 収益率は期間騰落率です。小数点以下第2位を四捨五入しております。

(4) 【設定及び解約の実績】

日本インデックス225DCファンド

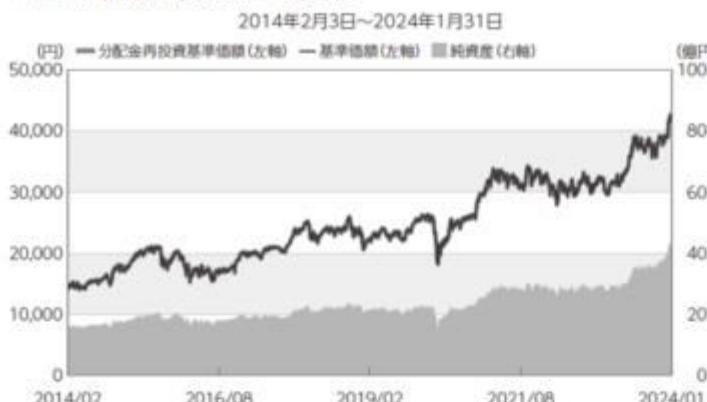
期間	設定数量(口)	解約数量(口)
第13期計算期間	533,936,432	579,251,275
第14期計算期間	621,166,102	614,679,422
第15期計算期間	485,322,373	522,801,719
第16期計算期間	381,666,620	446,198,764
第17期計算期間	372,581,360	298,080,795
第18期計算期間	212,818,284	322,888,930
第19期計算期間	391,753,340	395,910,589
第20期計算期間	360,644,810	321,881,031
第21期計算期間	352,512,736	321,738,331
第22期計算期間	558,197,228	459,818,489

参考情報

運用実績

2024年1月31日現在

●基準価額・純資産の推移



*基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後の価額です。

*分配金再投資基準価額は、決算時の分配金を非課税で再投資したものとして計算しております。

*設定時から10年以上経過した場合は、直近10年分を記載しています。

●分配金の推移

2024年 1月	0円
2023年 1月	0円
2022年 1月	0円
2021年 1月	0円
2020年 1月	0円
設定来累計	0円

*上記分配金は1万口当たり、税引前です。

●主な資産の状況

資産配分

資産	純資産比率
株式	98.09%
その他資産	1.91%
合計	100.00%

*マザーファンドを通じた実質比率を記載しております。

業種別配分(日本インデックスオープン225・マザーファンド)

業種	純資産比率
電気機器	26.87%
小売業	12.79%
情報・通信業	9.89%
化学	6.69%
医薬品	5.83%

*組入上位5業種です。

*比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

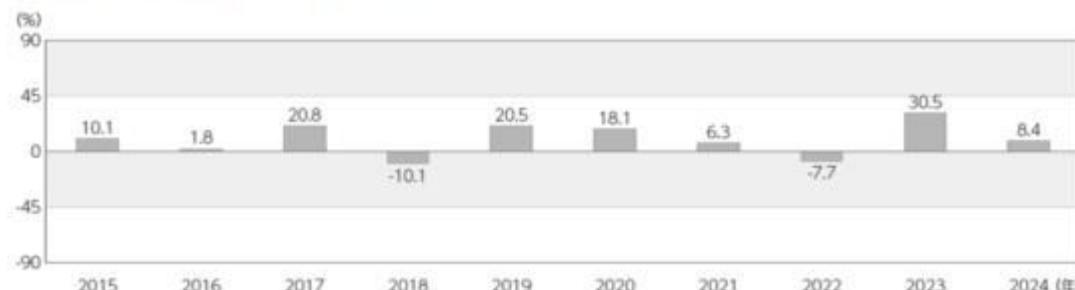
組入上位銘柄 *組入銘柄は、上位10銘柄もしくは全銘柄を記載しています。

日本インデックスオープン225・マザーファンド

銘柄名	業種	純資産比率
ファーストリテイリング	小売業	10.98%
東京エレクトロン	電気機器	7.70%
アドバンテスト	電気機器	4.29%
ソフトバンクグループ	情報・通信業	3.57%
KDDI	情報・通信業	2.71%
信越化学工業	化学	2.70%
ダイキン工業	機械	2.20%
TDK	電気機器	2.06%
ファンック	電気機器	1.90%
テルモ	精密機器	1.85%

*比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

●年間收益率の推移(暦年ベース)



*2024年は年初から1月末までの收益率を示しています。

*ファンドの年間收益率は、分配金再投資基準価額をもとに算出しています。

・過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

・最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

取得申込受付日

取得申込みは、申込期間における販売会社の営業日（ただし、委託会社の休業日を除きます。）に行うことができます。

ただし、委託会社は、取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込みの受付を中止することや、すでに受け付けた取得申込みの受付を取消すことができます。

取得申込受付時間

原則として、午後3時までとし、販売会社所定の事務手続きが完了した場合に、当日の受付として取り扱います。この時間を過ぎての申込みは、翌営業日の取扱いとなります。

取得申込手続

- ・ ファンドは、確定拠出年金法（平成13年法律第88号）に基づく確定拠出年金制度のための専用ファンドです。取得申込を行う者は、同法第8条第1項に規定される契約に基づいて受益権の取得申込を企図する者および同法第55条に規定される規約に基づいて受益権の取得申込を企図する同法第2条第5項に定める連合会（同法第61条に基づき連合会が事務を委託した者を含みます。）に限るものとします。
 - ・ 取得申込者は、販売会社に、取得申込と同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。
 - ・ 取得申込者は、販売会社との間でファンドに係る累積投資約款（別の名称で同様の権利義務関係を規定するものを含みます。）に基づく収益分配金の再投資等に係る契約を結んでいただきます。
 - ・ 申込単位は、1円以上1円単位です。
 - ・ 申込価額は、取得申込日の基準価額とします。
- なお、取得申込者が、ファンドに係る累積投資契約（別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含みます。）に基づき、収益分配金の再投資によりファンドを買付ける場合は、決算日の基準価額とします。
- ・ 申込手数料はありません。
 - ・ 取得申込者は、申込代金を販売会社の指定する期日までに販売会社が定める所定の方法により、販売会社に支払うものとします。

申込（販売）手続等に関するお問合わせ先（照会先）

SBI岡三アセットマネジメント株式会社

フリーダイヤル 0120-048-214（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.sbiokasan-am.co.jp>

2【換金（解約）手続等】

換金申込受付日

受益者は、販売会社の営業日（ただし、委託会社の休業日を除きます。）に、販売会社を通じて、換金の請求をすることができます。

換金申込受付時間

原則として、午後3時までとし、販売会社所定の事務手続きが完了した場合に、当日の受付として取り扱います。この時間を過ぎての申込みは、翌営業日の取扱いとなります。

解約請求制による換金手続

- ・ 受益者は、取得申込みを取り扱った販売会社を通じて委託会社に、1口単位をもって、解約の請求をすることができます。
- ・ 受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの投資信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。
- ・ 解約価額は、解約請求受付日の基準価額とします。解約価額につきましては、取得申込みを取り扱った販売会社にお問い合わせ下さい。
- ・ 解約手数料はありません。また、信託財産留保額もありません。
- ・ 解約代金は、解約請求受付日から起算して、原則として、4営業日目から販売会社を通じてお支払いします。

解約請求の受付の中止及び取消

- ・ 委託会社は、取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止することや、すでに受けた一部解約の実行の請求の受付を取消すことができるものとします。
- ・ 解約請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付の中止以前に行つた当日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該解約価額は、当該受付再開後の最初の基準価額の計算日に解約請求を受けたものとして計算された価額とします。

換金（解約）手続等に関するお問合わせ先（照会先）

SBI岡三アセットマネジメント株式会社

フリーダイヤル 0120-048-214（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.sbiokasan-am.co.jp>

3【資産管理等の概要】

（1）【資産の評価】

基準価額の計算方法

基準価額は、信託財産に属する資産を法令及び一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、基準価額は、便宜上1万口当たりで表示されることがあります。

マザーファンドの評価

ファンドが主要投資対象とするマザーファンドは、マザーファンドの基準価額で評価します。

わが国の金融商品取引所上場株式の評価

マザーファンドを通じて投資するわが国の金融商品取引所上場株式（日経平均株価（225種）採用銘柄）は、原則として、取引所における最終相場で評価します。

株価指数先物取引の評価

マザーファンドを通じて投資する株価指数先物取引は、原則として、取引所の発表する清算値段（清算価格）で評価します。

基準価額に関する照会方法等

基準価額は、原則として委託会社の毎営業日に計算されます。

基準価額は、販売会社または下記の照会先にお問い合わせください。

お問合わせ先（照会先）

SBI岡三アセットマネジメント株式会社

フリーダイヤル 0120-048-214（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.sbiokasan-am.co.jp>

なお、基準価額は、計算日の翌日付の日本経済新聞に1万口当たりで掲載されます。なお、掲載に関する権利は株式会社日本経済新聞社にあり、掲載されない場合もあります。

（2）【保管】

該当事項はありません。

（3）【信託期間】

信託期間は、2002年1月7日から無期限とします。

ただし、信託契約の解約（繰上償還）の規定により信託を終了させる場合があります。

（4）【計算期間】

計算期間は、毎年1月7日から翌年1月6日までとします。

ただし、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が始まるものとします。

（5）【その他】

信託契約の解約（繰上償還）

- a 委託会社は、この信託契約を終了させることが受益者のため有利であると認めるとき、対象インデックスが改廃されたとき、又はやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。
- b 委託会社は、上記aの事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、そ

の旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

- c 上記 b の公告及び書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- d 上記 c の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、信託契約の解約をしません。
- e 委託会社は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨及びその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- f 上記 c ~ eまでの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、一定の期間が一月を下らずにその公告及び書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。
- g 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し、信託を終了させます。
- h 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が、この信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引き継ぐことを命じたときは、後述の信託約款の変更 d に該当する場合を除き、その委託会社と受託会社との間において存続します。
- i 受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託約款の変更

- a 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、又はやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨及びその内容を監督官庁に届出ます。
- b 委託会社は、上記 a の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨及びその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- c 上記 b の公告及び書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- d 上記 c の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、信託約款の変更をしません。
- e 委託会社は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨及びその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- f 委託会社は、監督官庁の命令に基づいて、この信託約款を変更しようとするときは、上記 b ~ e の規定に従います。

反対者の買取請求権

前述の信託契約の解約（繰上償還）又は信託約款の変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

運用報告書の交付

委託会社は、毎計算期間（原則として、毎年1月7日から翌年1月6日までとします。）終了後

及び償還時に、期中の運用経過等を記載した交付運用報告書を作成し、知られたる受益者に、販売会社を通じて交付します。

運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページに掲載します。ただし、受益者から運用報告書（全体版）の請求があった場合には、これを交付します。

<https://www.sbiokasan-am.co.jp>

公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<https://www.sbiokasan-am.co.jp>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

信託事務の再信託

受託会社は、ファンドに係る信託事務の処理の一部について株式会社日本カストディ銀行と再信託契約を締結し、これを委託することができます。この場合、株式会社日本カストディ銀行は、再信託契約に基づいて所定の事務を行います。

関係法人との契約の更改等に関する手続等

販売会社との契約更改

委託会社は、販売会社との間の「投資信託受益権の取扱い等に関する契約（別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含みます。）」に基づき、受益権の募集の取扱い等を販売会社に委託しています。

この契約の有効期間は、契約締結日から1年で、期間満了の3ヵ月前までに委託会社又は販売会社から別段の申し出が無いときは自動的に1年間更新され、その後も同様とします。

変更内容の開示

販売会社との契約又は信託約款を変更した場合において、委託会社が変更内容について速やかに開示する必要があると認めるときは、有価証券届出書の訂正届出書を関東財務局長に提出することにより、変更内容を開示します。

4【受益者の権利等】

ファンドの受益権

受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

収益分配金に対する請求権

受益者は、ファンドに係る収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、販売会社に交付されます。

販売会社は、受益者に対し、収益分配金の再投資に係る受益権の売付を行います。

再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

償還金に対する請求権

受益者は、ファンドに係る償還金を持分に応じて請求する権利を有します。

償還金は、償還日（償還日が休業日の場合は翌営業日）から起算して、原則として、5営業日までに販売会社を通じて受益者に支払いを開始します。

受益者が、償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）にお支払いします。

換金に係る権利

受益者は、委託会社に対して解約請求を行う権利を有します。

書類の閲覧権

受益者は、委託会社に対して、当該受益者に係る投資信託財産に関する書類の閲覧又は謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第22期計算期間(2023年1月7日から2024年1月9日まで)の財務諸表について、東陽監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

【日本インデックス225DCファンド】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第21期 (2023年1月6日現在)	第22期 (2024年1月9日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	193,111	1,263,729
コール・ローン	3,862,226	16,194,251
親投資信託受益証券	2,761,082,221	4,037,525,971
未収入金	-	2,825,510
流動資産合計	<u>2,765,137,558</u>	<u>4,057,809,461</u>
資産合計	<u>2,765,137,558</u>	<u>4,057,809,461</u>
負債の部		
流動負債		
未払解約金	3,675	15,124,034
未払受託者報酬	477,697	611,927
未払委託者報酬	3,184,525	4,079,420
未払利息	3	22
その他未払費用	79,577	101,999
流動負債合計	<u>3,745,477</u>	<u>19,917,402</u>
負債合計	<u>3,745,477</u>	<u>19,917,402</u>
純資産の部		
元本等		
元本	*1 925,974,648	*1 1,024,353,387
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	1,835,417,433	3,013,538,672
(分配準備積立金)	406,573,966	802,171,780
元本等合計	<u>2,761,392,081</u>	<u>4,037,892,059</u>
純資産合計	<u>*2 2,761,392,081</u>	<u>*2 4,037,892,059</u>
負債純資産合計	<u>2,765,137,558</u>	<u>4,057,809,461</u>

(2) 【損益及び剩余金計算書】

(単位：円)

	第21期 自 2022年 1月 7日 至 2023年 1月 6日	第22期 自 2023年 1月 7日 至 2024年 1月 9日
営業収益		
受取利息	29	23
有価証券売買等損益	196,397,713	898,382,890
営業収益合計	<u>196,397,684</u>	<u>898,382,913</u>
営業費用		
支払利息	1,866	3,551
受託者報酬	935,147	1,111,146
委託者報酬	6,234,169	7,407,537
その他費用	156,003	185,469
営業費用合計	<u>7,327,185</u>	<u>8,707,703</u>
営業利益又は営業損失()	203,724,869	889,675,210
経常利益又は経常損失()	203,724,869	889,675,210
当期純利益又は当期純損失()	203,724,869	889,675,210
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()	26,053,409	227,045,854
期首剩余金又は期首次損金()	1,981,128,301	1,835,417,433
剩余金増加額又は欠損金減少額	735,860,299	1,477,536,071
当期追加信託に伴う剩余金増加額又は欠損金減少額	735,860,299	1,477,536,071
剩余金減少額又は欠損金増加額	703,899,707	962,044,188
当期一部解約に伴う剩余金減少額又は欠損金増加額	703,899,707	962,044,188
分配金	*1 -	*1 -
期末剩余金又は期末欠損金()	<u>1,835,417,433</u>	<u>3,013,538,672</u>

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

期 別	第22期 自 2023年 1月 7日 至 2024年 1月 9日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価に当たっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い 当ファンドの計算期間は、当期末が休日のため、2023年 1月 7日から2024年 1月 9日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

第21期 (2023年 1月 6日現在)	第22期 (2024年 1月 9日現在)
*1. 当該計算期間の末日における受益権の総数 925,974,648口	*1. 当該計算期間の末日における受益権の総数 1,024,353,387口
*2. 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 2.9821円 (10,000口当たりの純資産額 29,821円)	*2. 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 3.9419円 (10,000口当たりの純資産額 39,419円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第21期 自 2022年 1月 7日 至 2023年 1月 6日	第22期 自 2023年 1月 7日 至 2024年 1月 9日
*1. 分配金の計算過程 費用控除後の配当等収A 益額 費用控除後・繰越欠損B 金補填後の有価証券売 買等損益額 収益調整金額 C 分配準備積立金額 D 当ファンドの分配対象E=A+B+C+D 収益額 当ファンドの期末残存F 口数 10,000口当たり収益分G=E/F*10,000 配対象額 10,000口当たり分配金H 額 収益分配金金額 I=F*H/10,000	*1. 分配金の計算過程 費用控除後の配当等収A 益額 費用控除後・繰越欠損B 金補填後の有価証券売 買等損益額 収益調整金額 C 分配準備積立金額 D 当ファンドの分配対象E=A+B+C+D 収益額 当ファンドの期末残存F 口数 10,000口当たり収益分G=E/F*10,000 配対象額 10,000口当たり分配金H 額 収益分配金金額 I=F*H/10,000

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

期 別	第21期 自 2022年 1月 7日 至 2023年 1月 6日	第22期 自 2023年 1月 7日 至 2024年 1月 9日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが運用する主な有価証券は、売買目的の有価証券であります。保有する有価証券の詳細は、「(4)附属明細表」に記載しております。当該有価証券を保有した際の主要なリスクは、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等です。その他、保有するコール・ローン等の金銭債権及び金銭債務につきましては、信用リスク等をしております。	同左

項目	期別	第21期 自 2022年 1月 7日 至 2023年 1月 6日	第22期 自 2023年 1月 7日 至 2024年 1月 9日
3. 金融商品に係るリスク管理体制		当ファンドの委託会社の運用委員会において、運用に関する内規の制定及び改廃、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項の決定を行うほか、運用部門と独立したリスク管理部門において、「運用の指図に関する検証規程」に基づき、投資信託財産の運用の指図について、法令、投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款に定める運用の指図に関する事項の遵守状況を確認しております。また、運用分析会議におけるファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価や、売買分析会議におけるファンドの組入有価証券の評価損率や格付け状況、有価証券売買状況や組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し管理を行っております。	同左

2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	期別	第21期 (2023年 1月 6日現在)	第22期 (2024年 1月 9日現在)
1. 貸借対照表額、時価及び差額		貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法		時価の算定方法は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。この他、コール・ローン等は短期間で決済され、時価は帳簿価格と近似していることから、当該帳簿価格を時価としております。	同左

(関連当事者との取引に関する注記)

第21期 自 2022年 1月 7日 至 2023年 1月 6日	第22期 自 2023年 1月 7日 至 2024年 1月 9日
該当事項はありません。	同左

(重要な後発事象に関する注記)

第22期 自 2023年 1月 7日 至 2024年 1月 9日
該当事項はありません。

(その他の注記)

1. 元本の移動	第21期 (2023年 1月 6日現在)	第22期 (2024年 1月 9日現在)
投資信託財産に係る元本の状況	投資信託財産に係る元本の状況	
期首元本額 895,200,243円	期首元本額 925,974,648円	
期中追加設定元本額 352,512,736円	期中追加設定元本額 558,197,228円	
期中一部解約元本額 321,738,331円	期中一部解約元本額 459,818,489円	

2. 有価証券関係

売買目的有価証券の当計算期間の損益に含まれた評価差額

第21期(自 2022年 1月 7日 至 2023年 1月 6日)

(単位 : 円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	182,509,989
合計	182,509,989

第22期(自 2023年 1月 7日 至 2024年 1月 9日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	784,968,987
合計	784,968,987

3. デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

(4) 【附属明細表】

1. 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受益証券	日本円	日本インデックスオープン225・マザーファンド	904,342,152	4,037,525,971	
	計	銘柄数：1	904,342,152	4,037,525,971	
		組入時価比率：100.0%		100.0%	
合計				4,037,525,971	

(注)1. 比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

2. 親投資信託受益証券の券面総額欄には、口数を表示しております。

2. デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等、時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)

当ファンドは、「日本インデックスオープン225・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としております。貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、当該マザーファンドの受益証券です。

マザーファンドの経理状況は参考情報であり、監査証明の対象ではありません。

日本インデックスオープン225・マザーファンド

貸借対照表

科 目	期 別	注記番号	2023年 1月 6日現在	2024年 1月 9日現在	(単位：円)
			金額	金額	
資産の部					
流動資産					
金銭信託			10,858,580	28,791,524	
コール・ローン			217,171,824	368,953,432	
株式			12,136,250,400	15,852,140,200	
派生商品評価勘定			-	5,279,440	
未収配当金			19,008,750	23,539,500	
前払金			1,660,000	-	
差入委託証拠金			12,420,000	24,912,845	
流動資産合計			12,397,369,554	16,303,616,941	
資産合計			12,397,369,554	16,303,616,941	
負債の部					
流動負債					

科目	期別	注記番号	2023年 1月 6日現在	2024年 1月 9日現在
			金額	金額
派生商品評価勘定			1,667,920	-
前受金			-	5,290,000
未払解約金			10,188,730	3,380,560
未払利息			184	501
その他未払費用			1,999	5,126
流動負債合計			11,858,833	8,676,187
負債合計			11,858,833	8,676,187
純資産の部				
元本等				
元本	*1		3,676,648,931	3,649,823,432
剩余金			8,708,861,790	12,645,117,322
剩余金又は欠損金()			12,385,510,721	16,294,940,754
元本等合計			12,385,510,721	16,294,940,754
純資産合計	*2		12,397,369,554	16,303,616,941
負債純資産合計				

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	期別	自 2023年 1月 7日 至 2024年 1月 9日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法		株式 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価に当たっては、金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は第一種金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. デリバティブの評価基準及び評価方法		先物取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価に当たっては、取引所の発表する計算日の清算値段を用いております。
3. 収益及び費用の計上基準		受取配当金 原則として、配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を、未だ確定していない場合には予想配当金額を計上しております。 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。 派生商品取引等損益 約定日基準で計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

2023年 1月 6日現在	2024年 1月 9日現在
*1. 当該計算期間の末日における受益権の総数 3,676,648,931口	*1. 当該計算期間の末日における受益権の総数 3,649,823,432口
*2. 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 3.3687円 (10,000口当たりの純資産額 33,687円)	*2. 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 4.4646円 (10,000口当たりの純資産額 44,646円)

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

項目	期別	自 2022年 1月 7日 至 2023年 1月 6日	自 2023年 1月 7日 至 2024年 1月 9日
1. 金融商品に対する取組方針		当ファンドは証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用することを目的としております。	同左

項目	期別	自 2022年 1月 7日 至 2023年 1月 6日	自 2023年 1月 7日 至 2024年 1月 9日
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク		<p>当ファンドが運用する主な有価証券は、売買目的の有価証券であります。保有する有価証券の詳細は、「附属明細表」に記載しております。当該有価証券を保有した際の主要なリスクは、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等です。その他、保有するコール・ローン等の金銭債権及び金銭債務につきましては、信用リスク等を有しております。</p> <p>なお、当ファンドでは、デリバティブ取引として、日経平均株価（225種）に連動した投資成果と、ファンドの追加設定及び一部解約による投資信託財産の増減への対応を目的とした、株価指数先物取引を利用しております。株価指数先物取引に係る主要なリスクは、株式相場の変動による価格変動リスクです。</p>	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制		<p>当ファンドの委託会社の運用委員会において、運用に関する内規の制定及び改廃、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項の決定を行うほか、運用部門と独立したリスク管理部門において、「運用の指図に関する検証規程」に基づき、投資信託財産の運用の指図について、法令、投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款に定める運用の指図に関する事項の遵守状況を確認しております。また、運用分析会議におけるファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価や、売買分析会議におけるファンドの組入有価証券の評価損率や格付状況、有価証券売買状況や組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し管理を行っております。</p> <p>なお、デリバティブ取引の管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内規定を制定しており、デリバティブ取引のうち店頭デリバティブ取引の執行については、運用部長の承認を得て行つております。</p>	同左

2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	期別	2023年 1月 6日現在	2024年 1月 9日現在
1. 貸借対照表額、時価及び差額		貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法		時価の算定方法は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。この他、コール・ローン等は短期間で決済され、時価は帳簿価格と近似していることから、当該帳簿価格を時価としております。	同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明		デリバティブ取引の時価に関する契約額等については、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額、又は計算上の想定元本であり、当該金額 자체がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	同左

（その他の注記）

1. 元本の移動

2023年 1月 6日現在	
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	2022年 1月 7日
期首元本額	2,632,314,893円
期首より2023年 1月 6日までの追加設定元本額	1,417,223,784円
期首より2023年 1月 6日までの一部解約元本額	372,889,746円
期末元本額	3,676,648,931円

2023年 1月 6日現在	
2023年 1月 6日現在の元本の内訳(*)	
日本インデックスオープン 225	2,702,928,781円
日本インデックス 225 DC ファンド	819,628,409円
日本株式・Jリートバランスファンド	154,091,741円
グローバル資産分散投資ファンド A コース(安定)	- 円
グローバル資産分散投資ファンド B コース(やや安定)	- 円
グローバル資産分散投資ファンド C コース(標準)	- 円
グローバル資産分散投資ファンド D コース(やや積極)	- 円
グローバル資産分散投資ファンド E コース(積極)	- 円

2024年 1月 9日現在	
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	2023年 1月 7日
期首元本額	3,676,648,931円
期首より2024年 1月 9日までの追加設定元本額	1,152,236,478円
期首より2024年 1月 9日までの一部解約元本額	1,179,061,977円
期末元本額	3,649,823,432円
2024年 1月 9日現在の元本の内訳(*)	
日本インデックスオープン 225	2,566,033,757円
日本インデックス 225 DC ファンド	904,342,152円
日本株式・Jリートバランスファンド	156,633,069円
グローバル資産分散投資ファンド A コース(安定)	1,509,733円
グローバル資産分散投資ファンド B コース(やや安定)	2,583,724円
グローバル資産分散投資ファンド C コース(標準)	4,870,535円
グローバル資産分散投資ファンド D コース(やや積極)	5,422,191円
グローバル資産分散投資ファンド E コース(積極)	8,428,271円

*は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託毎の元本額

2. 有価証券関係

売買目的有価証券の当計算期間の損益に含まれた評価差額

2023年 1月 6日現在

(単位: 円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	741,517,349
合計	741,517,349

2024年 1月 9日現在

(単位: 円)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	260,422,156
合計	260,422,156

3. デリバティブ取引関係

取引の時価等に関する事項

2023年 1月 6日現在

(単位: 円)

区分	種類	契約額等	時価	評価損益
			うち1年超	
市場取引	株価指数先物取引 買建			

	日経平均株価指数先物	235,030,000	-	233,370,000	1,667,920
	合計	235,030,000	-	233,370,000	1,667,920

2024年 1月 9日現在

(単位：円)

区分	種類	契約額等	時価		評価損益
			うち1年超		
市場取引	株価指数先物取引 買建 日経平均株価指数先物	399,830,000	-	405,120,000	5,279,440
	合計	399,830,000	-	405,120,000	5,279,440

(注)時価の算定方法

- ・先物取引

　　国内先物取引について

　　先物取引の残高表示は、契約額によってあります。

　　先物取引の評価においては、取引所の発表する計算日の清算値段を用いてあります。

附属明細表

1. 有価証券明細表 株式

種類	通貨	銘柄	株数	評価額		備考
				単価	金額	
株式	日本円	ニッスイ	15,000	779.90	11,698,500	
		I N P E X	6,000	1,952.50	11,715,000	
		コムシスホールディングス	15,000	3,189.00	47,835,000	
		大成建設	3,000	5,062.00	15,186,000	
		大林組	15,000	1,263.50	18,952,500	
		清水建設	15,000	979.00	14,685,000	
		長谷工コーポレーション	3,000	1,926.00	5,778,000	
		鹿島建設	7,500	2,473.50	18,551,250	
		大和ハウス工業	15,000	4,525.00	67,875,000	
		積水ハウス	15,000	3,240.00	48,600,000	
		日揮ホールディングス	15,000	1,689.00	25,335,000	
		日清製粉グループ本社	15,000	2,001.00	30,015,000	
		明治ホールディングス	6,000	3,455.00	20,730,000	
		日本ハム	7,500	4,922.00	36,915,000	
		サッポロホールディングス	3,000	6,741.00	20,223,000	
		アサヒグループホールディングス	15,000	5,418.00	81,270,000	
		キリンホールディングス	15,000	2,094.50	31,417,500	
		宝ホールディングス	15,000	1,219.50	18,292,500	
		キッコーマン	16,000	8,894.00	142,304,000	
		味の素	15,000	5,571.00	83,565,000	

ニチレイ	7,500	3,538.00	26,535,000
日本たばこ産業	15,000	3,758.00	56,370,000
帝人	3,000	1,367.00	4,101,000
東レ	15,000	741.40	11,121,000
王子ホールディングス	15,000	563.00	8,445,000
日本製紙	1,500	1,303.00	1,954,500
クラレ	15,000	1,458.00	21,870,000
旭化成	15,000	1,087.00	16,305,000
レゾナック・ホールディングス	1,500	3,013.00	4,519,500
住友化学	15,000	360.80	5,412,000
日産化学	15,000	5,659.00	84,885,000
東ソー	7,500	1,934.00	14,505,000
トクヤマ	3,000	2,471.00	7,413,000
デンカ	3,000	2,591.50	7,774,500
信越化学工業	80,000	5,552.00	444,160,000
三井化学	3,000	4,321.00	12,963,000
三菱ケミカルグループ	7,500	889.20	6,669,000
U B E	1,500	2,372.50	3,558,750
花王	15,000	5,929.00	88,935,000
D I C	1,500	2,652.50	3,978,750
富士フィルムホールディングス	16,000	8,614.00	137,824,000
資生堂	15,000	4,230.00	63,450,000
日東電工	16,000	10,585.00	169,360,000
協和キリン	15,000	2,471.50	37,072,500
武田薬品工業	15,000	4,277.00	64,155,000
アステラス製薬	80,000	1,738.50	139,080,000
住友ファーマ	15,000	492.00	7,380,000
塩野義製薬	15,000	7,009.00	105,135,000
中外製薬	48,000	5,552.00	266,496,000
エーザイ	15,000	7,265.00	108,975,000
第一三共	48,000	4,117.00	197,616,000
大塚ホールディングス	15,000	5,640.00	84,600,000
出光興産	30,000	797.70	23,931,000
E N E O S ホールディングス	15,000	596.00	8,940,000
横浜ゴム	7,500	3,305.00	24,787,500
ブリヂストン	15,000	5,928.00	88,920,000
A G C	3,000	5,343.00	16,029,000
日本電気硝子	4,500	3,167.00	14,251,500
住友大阪セメント	1,500	3,780.00	5,670,000
太平洋セメント	1,500	3,007.00	4,510,500
東海カーボン	15,000	1,053.00	15,795,000
T O T O	7,500	3,898.00	29,235,000

日本碍子	15,000	1,753.00	26,295,000
日本製鉄	1,500	3,339.00	5,008,500
神戸製鋼所	1,500	1,937.50	2,906,250
J F E ホールディングス	1,500	2,309.00	3,463,500
大太平洋金属	1,500	1,201.00	1,801,500
三井金属鉱業	1,500	4,466.00	6,699,000
三菱マテリアル	1,500	2,594.50	3,891,750
住友金属鉱山	7,500	4,213.00	31,597,500
D O W A ホールディングス	3,000	5,111.00	15,333,000
古河電気工業	1,500	2,279.00	3,418,500
住友電気工業	15,000	1,845.00	27,675,000
フジクラ	15,000	1,101.50	16,522,500
S U M C O	1,500	2,089.50	3,134,250
日本製鋼所	3,000	2,460.00	7,380,000
オークマ	3,000	6,109.00	18,327,000
アマダ	15,000	1,521.00	22,815,000
S M C	1,600	76,440.00	122,304,000
小松製作所	15,000	3,779.00	56,685,000
住友重機械工業	3,000	3,562.00	10,686,000
日立建機	15,000	3,831.00	57,465,000
クボタ	15,000	2,158.50	32,377,500
荏原製作所	3,000	8,376.00	25,128,000
ダイキン工業	16,000	23,260.00	372,160,000
日本精工	15,000	776.50	11,647,500
N T N	15,000	267.10	4,006,500
ジェイテクト	15,000	1,232.50	18,487,500
日立造船	3,000	947.00	2,841,000
三菱重工業	1,500	8,651.00	12,976,500
I H I	1,500	2,816.50	4,224,750
コニカミノルタ	15,000	425.60	6,384,000
ミネベアミツミ	15,000	2,887.00	43,305,000
日立製作所	3,000	10,645.00	31,935,000
三菱電機	15,000	2,026.00	30,390,000
富士電機	3,000	6,117.00	18,351,000
安川電機	15,000	5,770.00	86,550,000
ニデック	12,000	5,712.00	68,544,000
オムロン	15,000	6,677.00	100,155,000
ジー・エス・ユアサ コーポレーション	3,000	2,032.00	6,096,000
日本電気	1,500	8,550.00	12,825,000
富士通	1,500	21,110.00	31,665,000
ルネサスエレクトロニクス	15,000	2,391.50	35,872,500
セイコーエプソン	30,000	2,156.00	64,680,000

パナソニック ホールディングス	15,000	1,410.50	21,157,500
シャープ	15,000	1,057.00	15,855,000
ソニーグループ	16,000	13,340.00	213,440,000
T D K	48,000	6,467.00	310,416,000
アルプスアルパイン	15,000	1,258.00	18,870,000
横河電機	15,000	2,751.50	41,272,500
アドバンテスト	128,000	4,945.00	632,960,000
キーエンス	1,500	61,580.00	92,370,000
レーザーテック	6,400	34,130.00	218,432,000
カシオ計算機	15,000	1,236.00	18,540,000
ファナック	80,000	4,130.00	330,400,000
京セラ	128,000	2,010.00	257,280,000
太陽誘電	15,000	3,603.00	54,045,000
村田製作所	38,400	2,888.50	110,918,400
S C R E E Nホールディングス	6,000	12,025.00	72,150,000
キヤノン	22,500	3,668.00	82,530,000
リコー	15,000	1,129.50	16,942,500
東京エレクトロン	48,000	24,910.00	1,195,680,000
デンソー	64,000	2,177.50	139,360,000
川崎重工業	1,500	3,225.00	4,837,500
日産自動車	15,000	566.40	8,496,000
いすゞ自動車	7,500	1,928.00	14,460,000
トヨタ自動車	80,000	2,694.00	215,520,000
日野自動車	15,000	486.30	7,294,500
三菱自動車工業	1,500	458.70	688,050
マツダ	3,000	1,631.00	4,893,000
本田技研工業	96,000	1,517.50	145,680,000
スズキ	15,000	6,059.00	90,885,000
S U B A R U	15,000	2,742.50	41,137,500
ヤマハ発動機	45,000	1,290.50	58,072,500
テルモ	64,000	4,827.00	308,928,000
ニコン	15,000	1,434.50	21,517,500
オリンパス	64,000	2,059.00	131,776,000
H O Y A	8,000	16,995.00	135,960,000
シチズン時計	15,000	883.00	13,245,000
バンダイナムコホールディングス	48,000	2,906.00	139,488,000
T O P P A Nホールディングス	7,500	4,013.00	30,097,500
大日本印刷	7,500	4,200.00	31,500,000
ヤマハ	15,000	3,261.00	48,915,000
任天堂	16,000	7,538.00	120,608,000
東京電力ホールディングス	1,500	782.00	1,173,000
中部電力	1,500	1,926.50	2,889,750

関西電力	1,500	1,959.00	2,938,500	
東京瓦斯	3,000	3,394.00	10,182,000	
大阪瓦斯	3,000	3,091.00	9,273,000	
東武鉄道	3,000	3,917.00	11,751,000	
東急	7,500	1,775.00	13,312,500	
小田急電鉄	7,500	2,239.50	16,796,250	
京王電鉄	3,000	4,557.00	13,671,000	
京成電鉄	7,500	6,820.00	51,150,000	
東日本旅客鉄道	1,500	8,297.00	12,445,500	
西日本旅客鉄道	1,500	6,043.00	9,064,500	
東海旅客鉄道	7,500	3,686.00	27,645,000	
ヤマトホールディングス	15,000	2,696.50	40,447,500	
NIPPON EXPRESS ホールディングス	1,500	8,380.00	12,570,000	
日本郵船	4,500	4,668.00	21,006,000	
商船三井	4,500	4,802.00	21,609,000	
川崎汽船	4,500	6,361.00	28,624,500	
日本航空	15,000	2,818.00	42,270,000	
ANAホールディングス	1,500	3,165.00	4,747,500	
三菱倉庫	7,500	4,355.00	32,662,500	
ネクソン	30,000	2,794.50	83,835,000	
メルカリ	15,000	2,471.50	37,072,500	
LINE ヤフー	6,000	481.00	2,886,000	
トレンドマイクロ	16,000	7,688.00	123,008,000	
日本電信電話	150,000	175.10	26,265,000	
KDDI	96,000	4,596.00	441,216,000	
ソフトバンク	15,000	1,830.00	27,450,000	
東宝	1,500	4,927.00	7,390,500	
NTTデータグループ	80,000	2,029.50	162,360,000	
コナミグループ	16,000	8,167.00	130,672,000	
ソフトバンクグループ	96,000	6,242.00	599,232,000	
双日	1,500	3,316.00	4,974,000	
伊藤忠商事	15,000	5,902.00	88,530,000	
丸紅	15,000	2,297.00	34,455,000	
豊田通商	16,000	8,787.00	140,592,000	
三井物産	15,000	5,425.00	81,375,000	
住友商事	15,000	3,132.00	46,980,000	
三菱商事	45,000	2,302.50	103,612,500	
J.フロント リテイリング	7,500	1,332.00	9,990,000	
三越伊勢丹ホールディングス	15,000	1,606.50	24,097,500	
セブン＆アイ・ホールディングス	15,000	5,734.00	86,010,000	
高島屋	7,500	1,977.00	14,827,500	
丸井グループ	15,000	2,443.00	36,645,000	

計	イオン	15,000	3,262.00	48,930,000
	ニトリホールディングス	4,500	18,075.00	81,337,500
	ファーストリテイリング	48,000	34,460.00	1,654,080,000
	しづおかフィナンシャルグループ	15,000	1,241.50	18,622,500
	コンコルディア・フィナンシャルグループ	15,000	658.20	9,873,000
	あおぞら銀行	1,500	3,162.00	4,743,000
	三菱UFJフィナンシャル・グループ	15,000	1,259.50	18,892,500
	りそなホールディングス	1,500	745.00	1,117,500
	三井住友トラスト・ホールディングス	3,000	2,855.00	8,565,000
	三井住友フィナンシャルグループ	1,500	7,123.00	10,684,500
	千葉銀行	15,000	1,034.00	15,510,000
	ふくおかフィナンシャルグループ	3,000	3,409.00	10,227,000
	みずほフィナンシャルグループ	1,500	2,506.50	3,759,750
	大和証券グループ本社	15,000	1,004.00	15,060,000
	野村ホールディングス	15,000	675.30	10,129,500
	SOMPOホールディングス	3,000	7,135.00	21,405,000
	MS & ADインシアランスグループホールディングス	4,500	5,699.00	25,645,500
	第一生命ホールディングス	1,500	3,044.00	4,566,000
	東京海上ホールディングス	22,500	3,582.00	80,595,000
	T & Dホールディングス	3,000	2,318.00	6,954,000
	クレディセゾン	15,000	2,637.50	39,562,500
	オリックス	15,000	2,747.00	41,205,000
	日本取引所グループ	15,000	3,037.00	45,555,000
	東急不動産ホールディングス	15,000	955.30	14,329,500
	三井不動産	15,000	3,576.00	53,640,000
	三菱地所	15,000	1,995.50	29,932,500
	東京建物	7,500	2,164.00	16,230,000
	住友不動産	15,000	4,323.00	64,845,000
	エムスリー	36,000	2,320.00	83,520,000
	ディー・エヌ・エー	4,500	1,511.50	6,801,750
	電通グループ	15,000	3,819.00	57,285,000
	オリエンタルランド	15,000	5,302.00	79,530,000
	サイバーエージェント	12,000	915.00	10,980,000
	楽天グループ	15,000	671.90	10,078,500
	リクルートホールディングス	48,000	5,894.00	282,912,000
	日本郵政	15,000	1,303.50	19,552,500
	セコム	16,000	10,595.00	169,520,000
	銘柄数：225			15,852,140,200
	組入時価比率：97.3%			100.0%
合 計				15,852,140,200

(注)比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

株式以外の有価証券

該当事項はありません。

2. デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等、時価の状況表

「(その他の注記)3. デリバティブ取引関係」に表示しております。

2 【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

日本インデックス225DCファンド

(2024年1月31日現在)

資産総額	4,391,691,197円
負債総額	11,844,679円
純資産総額(-)	4,379,846,518円
発行済数量	1,033,287,805口
1単位当たり純資産額(/)	4.2387円

(参考)日本インデックスオープン225・マザーファンド

(2024年1月31日現在)

資産総額	17,396,397,147円
負債総額	17,306,548円
純資産総額(-)	17,379,090,599円
発行済数量	3,619,473,424口
1単位当たり純資産額(/)	4.8016円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

名義書換についてその手続、取扱場所、取次所、代理人の名称及び住所並びに手数料
該当事項はありません。

受益者等に対する特典
該当事項はありません。

内国投資信託受益証券の譲渡制限の内容
該当事項はありません。

受益権について

ファンドの受益権は、投資信託振替制度における振替受益権であるため、委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

前項の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替

機関等の上位機関を含みます。)に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社債、株式等の振替に関する法律に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

質権口記載又は記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、解約請求の受付、解約金および償還金の支払い等については、投資信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本金の額(2024年1月末日現在)

資本金の額	1億円
会社が発行する株式の総数	2,600,000株
発行済株式の総数	1,132,101株
最近5年間における主な資本金の額の増減	あり

年月日	変更後(変更前)
2022年11月30日	60億284千円(10億円)
2023年 3月14日	1億円(60億284千円)

(2) 委託会社の機構(2024年1月末日現在)

委託会社の意思決定機構

委託会社は、12名以内で構成される取締役会により運営されます。

取締役は、委託会社の株主であることを要しません。

取締役は、株主総会において株主によって選任され、その任期は選任後2年以内に終了する事業年度の内最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでとします。

取締役会は、社長1名を選定するほか、会長、副社長、専務取締役、および常務取締役を若干名選任することができます。また、取締役会は取締役の中から代表取締役を若干名選定することができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、原則として、社長が招集します。取締役会の議長は、原則として、社長がこれにあたります。

取締役会の決議は、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役の過半数が出席したうえで、出席した取締役の過半数をもって決します。

運用の意思決定機構

運用委員会は、月1回、運用本部が策定した投資環境分析と運用の基本方針案に基づいて検討を行い、運用の基本方針を決定します。また、運用に関する内規の制定及び改廃等を決定します。委員長は審議・検討結果を執行役員会へ報告します。

また、執行役員会の構成員である業務執行取締役は、審議・検討結果を取締役会へ報告します。

運用戦略会議は、月1回、運用委員会で決定された運用の基本方針に基づいた個別ファンドの具体的な投資戦略について決定又は確認を行います。

ファンドマネージャーは、運用戦略会議で決定又は確認された投資戦略に基づき、ファンド毎に具体的な運用計画を策定し、運用計画に基づいて、運用の指図を行います。

運用分析会議は、月1回、運用のパフォーマンス向上等に資することを目的に、個別ファンドの運用パフォーマンスを分析・検証・評価し、ファンドマネージャーにフィードバックを行います。

売買分析会議は、月1回、運用財産に係る運用の適切性確保に資することを目的に、運用指図及び売買発注の事前検証及び事後検証に関する報告、法令諸規則及び約款等の遵守状況の検証に関する報告及び運用リスク管理状況の検証に関する報告を行います。議長は会議の結果を執行役員会へ報告します。

また、執行役員会の構成員である業務執行取締役は、会議の結果を取締役会へ報告します。

2 【事業の内容及び営業の概況】

当社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社として証券投資信託の設定を行うとともに、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として、その運用（投資運用業）及びその受益権の募集又は私募（第二種金融商品取引業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める投資一任契約にかかる投資運用業、投資助言・代理業を行っています。

2024年1月末日現在、委託会社の運用する証券投資信託は以下のとおりです。（親投資信託を除く。）

種類	本数(本)	純資産総額(億円)
追加型株式投資信託	164	11,806
追加型公社債投資信託	1	3,545
単位型株式投資信託	40	566
単位型公社債投資信託	5	103
合計	210	16,022

純資産総額について、億円未満を切り捨てているため、合計と合わない場合があります。

3 【委託会社等の経理状況】

(1) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。

財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。

(2) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度（自2022年4月1日至2023年3月31日）の財務諸表について、東陽監査法人の監査を受けております。

(3) 当社の中間財務諸表は「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）、ならびに同規則第38条及び第57条の規定に基づいて「金融商品取引業等に関する内

閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。

なお、中間財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。

(4) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間会計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）の中間財務諸表について、東陽監査法人の中間監査を受けております。

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日現在)	当事業年度 (2023年3月31日現在)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,694,938	12,540,483
有価証券	476	
短期貸付金	2	2
	5,000,000	
未収委託者報酬	1,104,368	1,311,125
未収運用受託報酬	10,322	10,800
未収投資助言報酬	11,876	11,876
前払費用	71,721	92,173
未収還付法人税等		30,079
未収収益	21,958	6,452
その他の流動資産	1,907	1,253
流動資産合計	<u>13,917,570</u>	<u>14,004,243</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物	1	1
器具備品	1	1
有形固定資産合計	<u>228,636</u>	<u>205,229</u>
無形固定資産		
ソフトウェア	33,989	30,119
電話加入権	2,122	2,122
無形固定資産合計	<u>36,112</u>	<u>32,241</u>
投資その他の資産		
投資有価証券	1,405,875	1,121,024
親会社株式	313,778	
長期差入保証金	257,464	257,258
前払年金費用	41,704	53,042
その他	24,980	480
貸倒引当金	14,510	
投資その他の資産合計	<u>2,029,292</u>	<u>1,431,804</u>
固定資産合計	<u>2,294,040</u>	<u>1,669,275</u>
資産合計	<u>16,211,610</u>	<u>15,673,519</u>

前事業年度

(2022年3月31日現在)

当事業年度

(2023年3月31日現在)

負債の部

流動負債

預り金	5,632	20,342
未払金	562,759	708,338
未払償還金	5,001	5,001
未払手数料	553,011	698,571
その他未払金	4,746	4,765
未払費用	240,442	239,029
未払法人税等	100,675	16,738
未払消費税等	62,522	31,221
賞与引当金	16,000	12,348
流動負債合計	988,031	1,028,018
固定負債		
退職給付引当金	303,215	293,279
役員退職慰労引当金	17,320	5,620
資産除去債務	92,457	93,410
繰延税金負債	33,150	18,513
固定負債合計	446,143	410,823
負債合計	1,434,175	1,438,841
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	100,000
資本剰余金		
資本準備金	566,500	
その他資本剰余金		11,467,068
資本剰余金合計	566,500	11,467,068
利益剰余金		
利益準備金	179,830	179,830
その他利益剰余金		
別途積立金	5,718,662	
繰越利益剰余金	7,083,746	2,331,880
利益剰余金合計	12,982,238	2,511,710
株主資本合計	14,548,738	14,078,778
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	228,697	155,899
評価・換算差額等合計	228,697	155,899
純資産合計	14,777,435	14,234,677
負債・純資産合計	16,211,610	15,673,519

(2) 【損益計算書】

(単位 : 千円)

営業収益	前事業年度	当事業年度
	(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
委託者報酬	9,416,174	9,113,651
運用受託報酬	19,672	19,318
投資助言報酬	27,600	27,600
営業収益合計	9,463,447	9,160,569
営業費用		
支払手数料	4,176,894	4,285,941

広告宣伝費	119,199	86,558
公告費		328
受益権管理費	16,147	16,118
調査費	2,125,996	1,858,200
調査費	288,304	315,915
委託調査費	1,837,692	1,542,285
委託計算費	257,289	260,793
営業雑経費	294,253	280,183
通信費	60,150	62,020
印刷費	159,554	146,353
諸経費	62,833	59,982
協会費	5,610	5,429
諸会費	6,103	6,397
営業費用合計	6,989,781	6,788,124
一般管理費		
給料	1,307,294	1,316,427
役員報酬	97,380	104,095
給料・手当	1,205,457	1,204,824
賞与	4,457	7,508
交際費	3,647	4,731
寄付金	15,363	17,082
旅費交通費	9,803	11,149
租税公課	41,340	8,668
不動産賃借料	232,838	283,162
賞与引当金繰入	15,818	12,348
退職給付費用	33,420	43,320
役員退職慰労引当金繰入	3,890	1,870
固定資産減価償却費	36,678	38,381
諸経費	329,172	351,617
一般管理費合計	2,029,266	2,088,759
営業利益	444,399	283,685

項目	前事業年度		当事業年度	
	(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)		(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	
	金額	件数	金額	件数
営業外収益				
受取配当金	1	33,968	1	14,713
受取利息	1	23,484	1	19,472
約款時効収入		1		
受取補償金		38		1,396
債務時効益		63,645		
雑益		5,427		4,051
営業外収益合計		126,566		39,634
営業外費用				
固定資産除却損	2	310	2	0
為替差損		91		233
支払補償費		38		1,396
株式交付費				35,001
雑損				88
営業外費用合計		439		36,720

経常利益		570,526	286,599
特別利益			
投資有価証券売却益		10,612	18,272
投資有価証券償還益		1,331	
貸倒り引当金戻入			14,510
特別利益合計		11,943	32,782
特別損失			
有価証券償還損		1,445	13
投資有価証券売却損		4,071	21
特別損失合計		5,516	34
税引前当期純利益		576,953	319,346
法人税、住民税及び事業税		166,557	90,878
法人税等調整額		12,320	3,853
法人税等合計		178,878	94,732
当期純利益		398,074	224,614

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

資本金	株主資本							評価・換算差額等		純資産合計	
	資本剰余金		利益剰余金					株主資本合計	その他有価証券評価差額金		
	資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	別途積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計				
当期首残高	1,000,000	566,500	566,500	179,830	5,718,662	6,707,859	12,606,351	14,172,851	359,574	359,574 14,532,426	
当期変動額											
剩 余 金 の配 当						22,188	22,188	22,188		22,188	
当 期 純 利 益						398,074	398,074	398,074		398,074	
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)									130,877	130,877 130,877	
当期変動額合計	-	-	-	-	-	375,886	375,886	375,886	130,877	130,877 245,009	
当期末残高	1,000,000	566,500	566,500	179,830	5,718,662	7,083,746	12,982,238	14,548,738	228,697	228,697 14,777,435	

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

資本金	株主資本							評価・換算差額等		純資産合計	
	資本剰余金			利益剰余金				株主資本合計	その他有価証券評価差額金		
	資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	1,000,000	566,500	-	566,500	179,830	5,718,662	7,083,746	12,982,238	14,548,738	228,697 14,777,435	
当期変動額											
新株の発行	5,000,284	5,000,284		5,000,284					10,000,568		

剩余金の配当						10,695,142	10,695,142	10,695,142			10,695,142
当期純利益						224,614	224,614	224,614			224,614
資本金からその他資本剰余金への振替	5,900,284		5,900,284	5,900,284							
資本準備金からその他資本剰余金への振替		5,566,784	5,566,784								
別途積立金の取崩					5,718,662	5,718,662					
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)									72,798	72,798	72,798
当期変動額合計	900,000	566,500	11,467,068	10,900,568	-	5,718,662	4,751,865	10,470,528	469,960	72,798	72,798
当期末残高	100,000	-	11,467,068	11,467,068	179,830	-	2,331,880	2,511,710	14,078,778	155,899	155,899
											14,234,677

[注記事項]

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定）

市場価格のない株式等

総平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法により償却しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 15~18年

器具備品 4~15年

(2) 無形固定資産

定額法により償却しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法により償却しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、当社内規に基づく期末要支給見積額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約に基づく主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は次のとおりであります。

(1) 委託者報酬

委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき、投資信託財産の日々の純資産総額に対する一定割合として日々認識され計上します。成功報酬は、一部の投資信託につき、契約で指定された日に一定の条件を満たし支払われることが確定した時点で認識され計上します。

(2) 運用受託報酬

運用受託報酬は、投資一任契約に基づき、契約残高に個別の契約で定めた報酬料率を乗じて算出された金額を日々認識し計上します。成功報酬は、個別の契約で定める水準を上回る超過運用益に対して支払われることが確定した時点で認識され計上します。

(3) 投資助言報酬

投資助言報酬は、投資助言契約に基づき、個別の契約で定める契約残高に報酬料率を乗じて算出された金額を日々認識し、計上します。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

（重要な会計上の見積り）

会計上の見積りにより当事業年度に係る財務諸表にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

繰延税金資産（負債）

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

繰延税金負債 18,513千円

上記の繰延税金負債18,513千円は、繰延税金資産123,394千円と繰延税金負債141,907千円の相殺後の金額であります。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

繰延税金資産は、将来の事業計画に基づく課税所得の発生時期及び金額によって認識しております。また、既に計上した繰延税金資産については、その回収可能性を毎期検討し、内容の見直しを行っております。

なお、課税所得の見積りは、将来の不確実な相場環境の変動や会社の経営状況などによって認識する金額に重要な影響を受ける可能性があり、実際に発生した課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、翌事業年度の財務諸表において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。また、税制改正により実効税率が変更された場合に、翌事業年度以降の財務諸表において認識する金額に重要な影響を与える可能性があります。

（会計方針の変更）

時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしてあります。なお、財務諸表に与える影響はありません。

(貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
建物	61,735千円	74,099千円
器具備品	114,517 " "	130,717 " "
計	176,253 " "	204,816 " "

2 関係会社に対する資産及び負債

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
短期貸付金	5,000,000千円	

(損益計算書関係)

1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
受取配当金	12,720千円	
受取利息	22,834千円	14,367千円

2 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
器具備品	310千円	0千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数	当事業年度増加 株式数	当事業年度減少 株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式（株）	554,701			554,701
自己株式				
普通株式（株）				
計	554,701			554,701

2. 剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年6月22日 定時株主総会	普通株式	22,188	40	2021年3月31日	2021年6月23日

3. 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当金の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月21日 定時株主総会	普通株式	22,188	利益剰余金	40	2022年3月31日	2022年6月22日

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末株式数
発行済株式				
普通株式(株)	554,701	577,400	554,701	577,400
A種優先株式(株)		554,701		554,701
自己株式				
普通株式(株)				
A種優先株式(株)				
合計	554,701	1,132,101	554,701	1,132,101

(注1)当事業年度の普通株式の増加株式数の557,400株は、SBIファイナンシャルサービスズ株式会社を割当先とする第三者割当増資を実施したことによるものであります。

(注2)事業年度の普通株式の減少株式数の554,701株及び、A種優先株式の増加株式数の554,701株は、株式会社岡三証券グループが保有する当社普通株式をA種優先株式へ変更したことによるものであります。

2. 剰余金の配当に関する事項

金銭による配当

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月21日 定時株主総会	普通株式	22,188	40	2022年3月31日	2022年6月22日
2022年11月11日 臨時株主総会	普通株式	10,000,000	18,027	2022年11月11日	2022年11月17日

金銭以外による配当

決議	株式の種類	配当財産の種類	配当財産の帳簿価格(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年11月11日 臨時株主総会	普通株式	有価証券	672,954	83.33	2022年11月11日	2022年11月14日

(注)2022年11月11日の臨時株主総会において、金銭配当及び当社が保有する株式会社岡三証券グループの株式8,075,180株（総額672,954千円）を株式会社岡三証券グループへ現物配当をすることを決定し、2022年11月14日に実施いたしました。

3. 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの 該当事項はありません。

（リース取引関係）

1. ファイナンス・リース取引

該当事項はありません。

2. オペレーティング・リース取引

（借主側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
1年以内	252,205	252,205
1年超	945,769	693,564
合計	1,197,974	945,769

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、金融商品取引法に定める投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業を営んでおります。これらの事業を当社では、自己資金で行っております。

一方、資金運用については、短期的な預金及び債券、投資有価証券での運用を行っております。なお、デリバティブ取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する主な金融資産は現金及び預金、有価証券、短期貸付金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、投資有価証券、親会社株式及び差入保証金であります。

預金は預入先金融機関の信用リスクに晒されております。有価証券、投資有価証券及び親会社株式は発行体の信用リスクやマーケットリスク等に晒されております。未収委託者報酬は投資信託財産中から当社（委託者）が得られる報酬であり、未収であるものであります。差入保証金は、主に本店の賃貸に伴うものであり、差入先の信用リスクに晒されております。

金融負債の主なものは、未払金（未払手数料）、未払法人税等であります。未払金（未払手数料）は委託者報酬中から当社が販売会社に支払うべき手数料であり、未払いのものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社は経営の健全化及び経営資源の効率化を目的として、リスク管理体制の強化を図り、適切なリスク・コントロールに努めております。金融資産に関わる信用リスク、マーケットリスク等を管理するため、社内規程等に従い、ポジション枠や与信枠等の適切な管理に努めております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度（2022年3月31日）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 有価証券	476	476	
(2) 投資有価証券	852,014	852,014	
(3) 親会社株式	313,778	313,778	
(4) 長期差入保証金	257,464	257,237	226

「現金及び預金」、「短期貸付金」、「未収委託者報酬」、「未払金（未払手数料）」等は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価格と近似するものであることから、記載を省略しております。

「差入保証金」は、合理的に見積りした差入保証金の返還予定期間に基づき、リスク・フリーレートで割引率を算出し割引計算をしております。

(注) 市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

(単位：千円)

	貸借対照表計上額
非上場株式	553,861

当事業年度（2023年3月31日）

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 投資有価証券	1,005,333	1,005,333	
(2) 差入保証金	257,258	257,036	221

「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払金（未払手数料）」等は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価格と近似するものであることから、記載を省略しております。

「差入保証金」は、合理的に見積りした差入保証金の返還予定時期に基づき、リスク・フリーレートで割引率を算出し割引計算をしております。

(注) 市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

(単位：千円)

	貸借対照表計上額
非上場株式	115,691

非上場株式については市場価格がないことから「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で貸借対照表に計上している金融商品

前事業年度（2022年3月31日）

時価で貸借対照表に計上している金融商品

(単位：千円)

	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券	336,529			852,014
親会社株式	313,778			313,778

なお投資信託の時価は上記に含まれておりません。投資信託の貸借対照表計上額は515,485千円であります。

時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：千円)

	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
差入保証金		257,237		257,237

当事業年度（2023年3月31日）

時価で貸借対照表に計上している金融商品

(単位 : 千円)

	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券	318,335	686,998		1,005,333

時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位 : 千円)

	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
差入保証金		257,036		257,036

(注1) 金融商品の時価の算定方法

投資有価証券

これらの時価について、上場株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は日本証券業協会が公表する価格等によっております。

(注2) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

株式等については、主たる取引所の最終価格を時価としており、レベル1の時価に分類しております。

非上場投資信託については、委託会社から提示された基準価額等によっており、主に信託財産の構成物のレベルに基づきレベル2に分類しております。

差入保証金については、合理的に見積りした差入保証金の返還予定期間に基づき、リスク・フリーレートで割引率を算出し割引計算をしており、レベル2の時価に分類しております。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定期額

前事業年度（2022年3月31日）

(単位 : 千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	7,694,938			
短期貸付金	5,000,000			
未収委託者報酬	1,104,368			
未収運用受託報酬	10,322			
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの				
その他	476	426,160	75,556	
長期差入保証金		5,259		252,205
合計	13,810,106	431,419	75,556	252,205

当事業年度（2023年3月31日）

(単位 : 千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	12,540,483			
短期貸付金				
未収委託者報酬	1,311,125			
未収運用受託報酬	10,800			
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの				
その他		398,094	75,588	
長期差入保証金		5,053		252,205
合計	13,862,408	403,147	75,588	252,205

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前事業年度（2022年3月31日）

(単位 : 千円)

区分	種類	貸借対照表 計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるも の	(1) 株式 (2) 債券 国債・地方債等 社債 その他 (3) その他	641,142 978,292	328,806 293,300	312,336 43,849
小計				356,186
貸借対照表計上額が 取得原価を超えない もの	(1) 株式 (2) 債券 国債・地方債等 社債 その他 (3) その他	9,165 178,812	12,350 202,183	3,185 23,371
小計		187,977	214,533	26,556
合計		1,166,269	836,639	329,629

(注) 市場価格のない株式等(非上場株式等)は、上表には含まれておりません。

((金融商品関係) 2. 金融商品の時価等に関する事項(注)に記載の通りであります。)

当事業年度(2023年3月31日)

(単位:千円)

区分	種類	貸借対照表 計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるも の	(1) 株式 (2) 債券 国債・地方債等 社債 その他 (3) その他	307,740 391,508	70,022 372,000	237,718 19,508
小計		699,248	442,022	257,226
貸借対照表計上額が 取得原価を超えない もの	(1) 株式 (2) 債券 国債・地方債等 社債 その他 (3) その他	10,595 295,490	11,992 312,977	1,397 17,487
小計		306,085	324,970	18,885
合計		1,005,333	766,992	238,341

(注) 市場価格のない株式等(非上場株式等)は、上表には含まれておりません。

((金融商品関係) 2. 金融商品の時価等に関する事項(注)に記載の通りであります。)

2. 事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度(自2021年4月1日至2022年3月31日)

(単位:千円)

種類	売却額	売却益の 合計額	売却損の 合計額
(1) 株式			
(2) 債券 国債・地方債等			

社債			
その他			
(3) その他	178,540	10,612	4,071
合計	178,540	10,612	4,071

当事業年度（自2022年4月1日至2023年3月31日）

(単位：千円)

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
(1) 株式			
(2) 債券			
国債・地方債等			
社債			
その他			
(3) その他	29,250	18,272	21
合計	29,250	18,272	21

3. 減損処理を行った有価証券

前事業年度（自2021年4月1日至2022年3月31日）

該当ありません。

当事業年度（自2022年4月1日至2023年3月31日）

該当ありません。

時価のある株式等については、決算日の時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、原則として減損処理を行い、30%以上50%未満下落した場合には、回復可能性があると認められるものを除き、減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

当社は、デリバティブ取引を利用していないため該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社の退職給付制度は、確定拠出年金制度（証券総合型DC岡三プラン）、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度から構成されております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
	(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
退職給付債務の期首残高	559,931	589,334
勤務費用	45,923	49,725
利息費用	559	1,237
数理計算上の差異の発生額	36,251	70,336
退職給付の支払額	53,330	55,774
退職給付債務の期末残高	589,334	514,185

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
	(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

年金資産の期首残高	369,840	381,116
期待運用収益	1,849	1,905
数理計算上の差異の発生額	21,250	35,927
事業主からの拠出額	17,960	16,747
退職給付の支払額	29,783	22,575
年金資産の期末残高	381,116	341,266

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	284,316	248,503
年金資産	381,116	341,266
	96,800	92,763
非積立型制度の退職給付債務	305,018	265,682
未積立退職給付債務	208,218	172,919
未認識数理計算上の差異	53,292	67,317
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	261,510	240,237
退職給付引当金	303,215	293,279
前払年金費用	41,704	53,042
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	261,510	240,237

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
勤務費用	45,923	49,725
利息費用	559	1,237
期待運用収益	1,849	1,905
数理計算上の差異の費用処理額	26,345	20,383
確定給付制度に係る退職給付費用	18,288	28,673

(5) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	当事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
株式	40.4%	39.8%
一般勘定	26.7%	26.1%
債券	19.3%	20.7%
その他	13.6%	13.4%
合計	100.0%	100.0%

長期期待運用收益率の設定方法

年金資産の長期期待運用收益率は、保有する年金資産のポートフォリオ、過去の運用実績、運用方針、及び市場の動向等を考慮し設定しております。

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
割引率	0.21%	0.40%
長期期待運用收益率	0.50%	0.50%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度14,203千円、当事業年度13,468千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	92,844	101,445
役員退職慰労引当金	5,303	1,943
賞与引当金	4,899	4,271
ゴルフ会員権評価損	918	
貸倒引当金	4,442	
その他有価証券評価差額金	8,131	6,532
投資有価証券評価損	2,817	3,011
資産除去債務	28,310	32,310
未払事業税	8,308	4,871
その他	4,822	6,466
繰延税金資産小計	160,799	160,852
評価性引当額	41,930	37,458
繰延税金資産の合計	118,868	123,394
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	109,064	88,974
未収配当金	6,043	2,072
資産除去債務に対応する除去費用	24,141	26,664
前払年金費用	12,769	18,347
未収還付事業税		5,848
繰延税金負債の合計	152,018	141,907
繰延税金資産(負債)の純額	33,150	18,513

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

前事業年度
(2022年3月31日)

当事業年度
(2023年3月31日)

法定実効税率	34.59%
--------	--------

(調整)

寄付金課税等永久に損金に算入されない項目	0.95%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.90%
住民税均等割	1.19%
税率変更に伴う影響額	3.64%
評価性引当額の増減	3.10%
その他	0.58%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.66%

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額修正

当社は、2023年3月14日に資本金を100百万円に減資したことにより、法人事業税において外形標準課税が不適用となりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の30.62%から34.59%となりました。

この税率変更による当事業年度の財務諸表に与える影響は軽微であります。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

本店の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から50年と見積り、割引率は1.030%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
期首残高	91,515	92,457
有形固定資産の取得に伴う増加額		
時の経過による調整額	942	952
資産除去債務の履行による減少額		
期末残高	92,457	93,410

(収益認識関係)

(1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

委託者報酬	9,113,651
残高報酬	9,097,589
成功報酬	16,061
運用受託報酬	19,318
投資助言報酬	27,600
合計	9,160,569

(2) 収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、(重要な会計方針)4. 収益及び費用の計上基準に記載のとおりであります。

(3)当事業年度及び翌事業年度以降の収益の金額を理解するための情報

顧客との契約から生じた債権は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

未収委託者報酬	1,311,125
未収運用受託報酬	10,800
未収投資助言報酬	11,876
合計	1,333,802

(セグメント情報等)

1.セグメント情報

(1)報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は「投資信託部門」及び「投資顧問部門」ごとに、経営戦略を立案・決定し、経営資源の配分及び業績の評価を行っております。

なお、「投資顧問部門」のセグメントの売上高、利益又は損失の金額及び資産の額がいずれも事業セグメントの合計額の10%未満でありますので、報告セグメントは「投資信託部門」のみであります。

報告セグメントである「投資信託部門」では投資信託の運用、商品開発等を行っております。

報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2)報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(3)報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前事業年度（自2021年4月1日 至2022年3月31日）

報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

当事業年度（自2022年4月1日 至2023年3月31日）

報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(4)報告セグメント合計額と財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

前事業年度（自2021年4月1日 至2022年3月31日）

報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

当事業年度（自2022年4月1日 至2023年3月31日）

報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

2.関連情報

前事業年度（自2021年4月1日 至2022年3月31日）

(1) 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

(3) 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

当事業年度（自2022年4月1日 至2023年3月31日）

(1) 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

(3) 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	譲決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	株式会社岡三証券グループ	東京都中央区	18,589,682	証券業	被所有直接31.5%	直接の親会社資金貸付	資金貸付	5,000,000	短期貸付金	5,000,000
同一の親会社を持つ会社	岡三証券株式会社	東京都中央区	5,000,000	証券業	被所有直接3.4%	当社ファンドの募集取扱	支払手数料の支払(注1)	2,358,137	未払手数料	2,016

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針

過去の取引条件及びファンドの商品性を勘案して決定しております。

2. 資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

3. 2022年1月1日付で岡三証券株式会社は、当該株式会社の兄弟会社である岡三オンライン証券株式会社を吸収合併したため、取引金額には合併前の岡三オンライン証券株式会社との取引金額が含まれております。

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
その他の関係会社	株式会社岡三証券グループ	東京都中央区	18,589,682	証券業	被所有直接(49%)	直接の親会社資金貸付	資金貸付の返済	5,000,000	短期貸付金	-
							受取利息	14,367	未収利息	-
その他の関係会社の子会社	岡三証券株式会社	東京都中央区	5,000,000	証券業	-	当社ファンドの募集取扱	支払手数料の支払(注1)	2,718,939	未払手数料	532,414

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針

過去の取引条件及びファンドの商品性を勘案して決定しております。

2. 資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

SBIホールディングス株式会社（東京証券取引所に上場）

SBIファイナンシャルサービスズ株式会社（非上場）

SBI F S 合同会社（非上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
1株当たり純資産額	26,640円36銭	12,573円68銭
1株当たり当期純利益金額	717円63銭	300円41銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上、参加型株式については普通株式と同様に扱っており、

普通株式の期中平均株式数に含めております。

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
当期純利益金額	398,074千円	224,614千円
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る当期純利益	398,074千円	224,614千円
普通株式の期中平均株式数	554,701株	747,694株

4. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
純資産の部の合計額	14,777,435千円	14,234,677千円
純資産の部から控除する合計額		
普通株式に係る期末の純資産額	14,777,435千円	14,234,677千円
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数 (うちA種優先株式)	554,701株	1,132,101株 (554,701 株)

(注) A種優先株式は、残余財産の分配について普通株式と同順位であるため、1株当たり純資産額の

算定上、その普通株式相当数を期末の普通株式の数に含めて計算しております。

(重要な後発事象)
該当事項はありません。

中間財務諸表

(1) [中間貸借対照表]

(単位：千円)

当中間会計期間

(2023年9月30日)

資産の部

流動資産

現金及び預金	12,693,392
未収委託者報酬	1,411,402
未収運用受託報酬	8,717
未収投資助言報酬	27,097
その他の流動資産	100,012
流動資産合計	14,240,622

固定資産

有形固定資産	196,709
無形固定資産	27,373
投資その他の資産	1,728,719
投資有価証券	1,413,930
その他	314,789
固定資産合計	1,952,803

資産合計

16,193,425

(単位：千円)

当中間会計期間

(2023年9月30日)

負債の部

流動負債

預り金	30,566
前受運用受託報酬	1,138
未払金	749,908
未払償還金	5,001
未払手数料	744,532
その他未払金	374
未払法人税等	114,820
その他流動負債	301,547
流動負債合計	1,197,980

固定負債

退職給付引当金	291,859
役員退職慰労引当金	6,560
繰延税金負債	64,330
資産除去債務	93,891
固定負債合計	456,641

負債合計

1,654,621

純資産の部

株主資本	
資本金	100,000
資本剰余金	
その他資本剰余金	11,467,068
資本剰余金合計	11,467,068
利益剰余金	
利益準備金	179,830
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	2,537,299
利益剰余金合計	2,717,129
株主資本合計	14,284,197
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	254,606
評価・換算差額等合計	254,606
純資産合計	14,538,803
負債・純資産合計	16,193,425

(2) [中間損益計算書]

(単位：千円)

当中間会計期間
(自 2023年4月1日
至 2023年9月30日)

営業収益	
委託者報酬	4,776,839
運用受託報酬	19,519
投資助言報酬	13,837
その他営業収益	3,877
営業収益合計	4,814,074
営業費用	
一般管理費	970,714
営業利益	303,641
営業外収益	10,029
営業外費用	53
経常利益	313,617
特別利益	1,587
特別損失	-
税引前中間純利益	315,205
法人税、住民税及び事業税	116,168
法人税等調整額	6,381
法人税等合計	109,786
中間純利益	205,418

(3) [中間株主資本等変動計算書]

当中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

(単位：千円)

	株主資本						株主資本	その他有価証券評価差額等	純資産合計			
	資本剰余金		利益剰余金		その他 利益剰余金	利益剰余金						
	資本金	その他	資本剰余金	利益								

		資本剰余金	合計	準備金	繰越利益剰余金	合計	合計	価差額金	合計	
当期首残高	100,000	11,467,068	11,467,068	179,830	2,331,880	2,511,710	14,078,778	155,899	155,899	14,234,677
当中間期変動額										
剰余金の配当										
中間純利益					205,418	205,418	205,418			205,418
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)								98,707	98,707	98,707
当中間期変動額合計	-	-	-	-	205,418	205,418	205,418	98,707	98,707	304,126
当中間期末残高	100,000	11,467,068	11,467,068	179,830	2,537,299	2,717,129	14,284,197	254,606	254,606	14,538,803

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)

市場価格のない株式等

総平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 15~18年

器具備品 4~15年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(2) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、当社内規に基づく中間期末要支給見積額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約に基づく主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は次のとおりであります。

(1) 委託者報酬

委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき、投資信託財産の日々の純資産総額に対する一定割合として日々認識され計上します。成功報酬は、一部の投資信託につき、契約で指定された日に一定の条件を満たし支払われることが確定した時点で認識され計上します。

(2) 運用受託報酬

運用受託報酬は、投資一任契約に基づき、契約残高に個別の契約で定めた報酬料率を乗じて算出された金額を日々認識し計上します。成功報酬は、個別の契約で定める水準を上回る超過運用益に対して支払われることが確定した時点で認識され計上します。

(3) 投資助言報酬

投資助言報酬は、投資助言契約に基づき、個別の契約で定める契約残高に報酬料率を乗じて算出された金額を日々認識し、計上します。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、中間決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

注記事項

(中間貸借対照表関係)

有形固定資産の減価償却累計額

当中間会計期間	
(2023年9月30日)	
建物	80,287千円
器具備品	134,106 " "
計	214,393 " "

(中間損益計算書関係)

1営業外収益の主要項目は、次のとおりであります。

当中間会計期間	
(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	
受取配当金	6,828千円

2特別利益の主要項目は、次のとおりであります。

当中間会計期間	
(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	
投資有価証券売却益	1,587千円

3減価償却実施額は、次のとおりであります。

当中間会計期間	
(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	
有形固定資産	9,576千円
無形固定資産	4,868 " "

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
発行済株式				
普通株式(株)	577,400			577,400
A種優先株式(株)	554,701			554,701
自己株式				
普通株式(株)				
A種優先株式(株)				
合計	1,132,101			1,132,101

2. 剰余金の配当に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引
該当事項はありません。

2. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

当中間会計期間

(2023年9月30日)

1年内	252,205	千円
1年超	567,461	"
合計	819,666	"

(金融商品関係)

当中間会計期間（2023年9月30日）

1. 金融商品の時価等に関する事項

2023年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 投資有価証券	1,298,239	1,298,239	

「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払金（未払手数料）」等は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似することから、記載を省略しております。

(注) 市場価格のない株式等の中間貸借対照表計上額

市場価額のない株式等は、(1) 投資有価証券には含まれておりません。当該金融商品の中間貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	中間貸借対照表計上額
非上場株式	115,691

非上場株式については市場価格がないことから「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベ

ルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で中間貸借対照表に計上している金融商品

(単位：千円)

	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券	459,271	838,968		1,298,239

(2) 時価で中間貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

「現金及び預金」、「未収委託者報酬」、「未払金（未払手数料）」等は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似することから、記載を省略しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

投資有価証券

これらの時価について、上場株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は日本証券業協会が公表する価格等によっております。非上場投資信託は基準価額等によっております。

(注2) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

株式等については、主たる取引所の最終価格を時価としており、レベル1の時価に分類しております。

非上場投資信託については、委託会社から提示された基準価額等によっており、レベル2に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

当中間会計期間（2023年9月30日）

(単位：千円)

区分	種類	中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式 (2) 債券 国債・地方債等 社債 その他 (3) その他	448,676 608,269	70,022 555,000	378,654 53,269
小計		1,056,945	625,022	431,923
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	10,595	11,992	1,397

	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
	(3) その他	230,699	271,977	41,278
小計		241,294	283,970	42,675
合計		1,298,239	908,992	389,247

(注) 市場価格のない株式等(非上場株式等)は、上表には含まれておりません。

(金融商品関係) 1. 金融商品の時価等に関する事項(注)に記載のとおりであります。)

(デリバティブ取引関係)

当中間会計期間(2023年9月30日)

当社は、デリバティブ取引を利用していないため該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち中間貸借対照表に計上しているもの

当該資産除去債務の総額の増減

当中間会計期間		
(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)		
期首残高	93,410	千円
時の経過による調整額	481	"
当中間会計期間末残高	93,891	"

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当中間会計期間		
(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)		
委託者報酬	4,776,839	千円
残高報酬	4,648,783	"
成功報酬	128,055	"
運用受託報酬	19,519	"
投資助言報酬	13,837	"
その他営業収益	3,877	"
合計	4,814,074	"

(セグメント情報等)

1. セグメント情報

当中間会計期間(自2023年4月1日至2023年9月30日)

当社は「投資信託部門」及び「投資顧問部門」ごとに、経営戦略を立案・決定し、経営資源の配分及び業績の評価を行っております。

なお「投資顧問部門」のセグメントの営業収益、利益又は損失の金額及び資産の額がいずれも事業セグメントの合計額の10%未満でありますので、報告セグメントは「投資信託部門」のみであります。

報告セグメントである「投資信託部門」では投資信託の運用、商品開発等を行っております。報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

2. 関連情報

当中間会計期間(自2023年4月1日至2023年9月30日)

(1) 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当中間会計期間（自2023年4月1日 至2023年9月30日）

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当中間会計期間（自2023年4月1日 至2023年9月30日）

該当事項はありません。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

当中間会計期間（自2023年4月1日 至2023年9月30日）

該当事項はありません。

(1) 株当たり情報

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当中間会計期間 (2023年9月30日)
(1) 1株当たり純資産額	12,842円32銭
(算定上の基礎)	
純資産の部の合計額(千円)	14,538,803
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	
普通株式に係る中間期末の純資産額(千円)	14,538,803
普通株式の発行済株式数(株)	1,132,101
1株当たり純資産額の算定に用いられた	
中間期末の普通株式の数(株)	1,132,101
(うちA種優先株式)	554,701

	当中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
(2) 1株当たり中間純利益金額	181円44銭
(算定上の基礎)	
中間純利益金額(千円)	205,418
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る中間純利益金額(千円)	205,418
普通株式の期中平均株式数(株)	1,132,101

(注1) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式は存在しないため、記載しておりません。

(注2) A種優先株式残余財産の分配について普通株式と同順位であるため、1株当たり純資産額の算定上、その普通株式相当数を期末の普通株式の数に含めて計算しております。

(注3) 1株当たり中間純利益金額の算定上、参加型株式については普通株式と同様に扱っており、普通株式の期中平均株式数に含めております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4 【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要的取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5 【その他】

（1）定款の変更等

2022年11月30日付で、株式の譲渡制限、優先株式の発行と優先株式に係る優先配当、非業務執行取締役の責任限定契約等に関する定款変更を行いました。

2023年3月27日付で、監査役会の廃止に伴う定款変更を行いました。

また、2023年7月1日付で、商号の変更（新商号 SBI岡三アセットマネジメント株式会社）に関する定款変更を行いました。

（2）訴訟事件その他の重要事項

岡三アセットマネジメント株式会社は、SBIホールディングス株式会社の完全子会社であるSBIファイナンシャルサービスズ株式会社に第三者割当増資を行い、2022年11月30日付で、SBIホールディングス株式会社の連結子会社並びに株式会社岡三証券グループの持分法適用関連会社となりました。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

（1）「受託会社」

株式会社りそな銀行

資本金の額

2023年3月末日現在、279,928百万円

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

（2）「販売会社」（資本金の額は、2023年3月末日現在）

名称	資本金の額(百万円)	事業の内容
岡三証券株式会社	5,000	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社 りそな銀行	279,928	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

2【関係業務の概要】

（1）「受託会社」は、主に以下の業務を行います。

- 投資信託財産の保管、管理及び計算
- 委託会社の指図に基づく投資信託財産の処分

（2）「販売会社」は、主に以下の業務を行います。

- 受益権の募集の取扱い
- 収益分配金の再投資
- 収益分配金、償還金及び解約金の支払いの取扱い
- 投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）、運用報告書の交付の取扱い
- 解約請求の受付、買取請求の受付・実行

3【資本関係】

（持株比率5.0%以上を記載します。）

該当事項はありません。

第3【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が提出されております。

提出年月日	提出書類
2023年 4月 3日	有価証券届出書
2023年 4月 3日	有価証券報告書
2023年10月 5日	有価証券届出書
2023年10月 5日	半期報告書

独立監査人の監査報告書

2023年6月20日

岡三アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

東陽監査法人
東京事務所

指定社員 業務執行社員	公認会計士	榎倉昭夫
指定社員 業務執行社員	公認会計士	大橋 瞳

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている岡三アセットマネジメント株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第59期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、岡三アセットマネジメント株式会社の2023年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による

重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1.上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2.XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2024年3月11日

SBI岡三アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

東陽監査法人
東京事務所

指定社員 公認会計士 榎倉昭夫
業務執行社員

指定社員 公認会計士 大橋 瞳
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている「日本インデックス225DCファンド」の2023年1月7日から2024年1月9日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、「日本インデックス225DCファンド」の2024年1月9日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、SBI岡三アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められている他の事項について報告を行う。

利害関係

SBI岡三アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1.上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2.XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2023年12月4日

SBI岡三アセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

東陽監査法人
東京事務所

指定社員 業務執行社員	公認会計士	松本直也
指定社員 業務執行社員	公認会計士	大橋 瞳

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているSBI岡三アセットマネジメント株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第60期事業年度の中間会計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、SBI岡三アセットマネジメント株式会社の2023年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監

査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関する有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められている他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1.上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2.XBRLデータは監査の対象には含まれていません。